KPU NEWS
薬学の未来をつくる
京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY
No. 190 July 2017

理事長就任にあたって

学校法人京都薬科大学 理事長　土屋 勝

武田前理事長の後任として、5月30日付で理事長に就任し、改めて責任の重さを実感しています。微力ではありますが、本学発展のため万全を期す所存であります。皆さま方の絶大なるご支援をお願い申し上げます。

私は、1971年に本学を卒業後、地方自治体に勤務し行政事務、主に薬務行政の事務に従事してきました。2008年の定年退職後は、製薬企業で組織する団体の役員として、薬業振興の仕事をしてきました。

定年退職時に、本学先輩の元理事から評議員を務めるよう要請があり、お世話になった母校のため少しでもお役に立てればとお引き受けしました。その後、田村元理事長から命を受け理事として3期9年にわたり大学運営に携わり、その間2010年から常任理事を7年務めました。

武田前理事長が取り組まれました第2期中期計画の推進により、創立130周年記念館の建設や南校地のアメニティ施設としての南風館をはじめとした施設の整備等ハード面はほぼ完成しています。また、ソフト面の充実でも大学のグローバル化、奨学金制度の拡充等、ここ数年で学生諸君にとって魅力ある大学になっています。

さて、我が国の大学では、2018年度以降の急激な18歳人口の減少と進学率の横ばいが重なるいわゆる「2018年問題」が取りざたされています。今後、大学の経営状況がますます厳しくなることが予想されますが、幸いにも、本学には133年の歴史と伝統に裏打ちされた高い教育力･研究力があります。また、財政基盤も安定しています。

本学が今まで以上に発展するためには、「大学の価値を高める」ことが重要と考えています。大学の価値を高めることによって、在籍する学生、卒業生をはじめとする多くのステークホルダーズの価値を高めることにもなります。大学の価値としては、教育力、研究力、財務力、就職力などを高めることが重要ですが、薬科大学にはこれらに加え薬剤師国家試験の合格率も大きな要素であります。

昨年4月に改正されました学長選考規則の「学長の資格」には、「学長は、本学の価値を高め、将来ビジョンを示すことができる者」と規定されていま

Contents

■ ご挨拶
理事長就任にあたって …… 1
ご挨拶 …… 2

■ 特集
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療
ファルマコメタロミクスの確立」終了報告 …… 6

■ お知らせ
人事 …… 10
2017年度 試験関係日程 …… 14
2018年度 京都薬科大学入学試験について …… 17
2018年度 大学院入学選考概要 …… 18
2017年度 生涯教育eラーニング講座概要 …… 24
クラブだより …… 25
お知らせ …… 26
教育後援会からのお知らせ …… 26
Library News …… 29
京薬会だより …… 31

■ コラム
水中でぶつぶつ …… 4
卒業生からのメッセージ …… 5
私の薦める、私の一冊 …… 27
学生相談室だより …… 28

■ イベント
2017年度「白衣授与式」開催 …… 5
市民公開講座「乳がん」開催 …… 11
第8回「KPUシンポジウム」開催 …… 12
第1回「クリニカルリサーチマネジメントプログラム」開催 …… 15
「留学の心構え研修」開催 …… 22

■ 報告
2016年度 授業評価集計結果の報告 …… 16
2016年度 決算について …… 20
平成29年度科学研究費助成事業 採択状況 …… 23
受賞・掲載 …… 30
京都薬科大学奨学金寄付金芳名録 …… 32

す。学長と共に本学の価値を高め、ステークホルダーズの価値を高めることが、本学の命題であると思っています。

今後は、後藤学長と常に意思疎通を図り、皆さま方のご理解ならびにご協力を仰ぎながら、本学の価値を高め、さらなる発展に寄与したいと思っています。

皆さま方には、今後もご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新任のご挨拶

医療薬科学系
臨床薬剤疫学分野
教授　村木 優一

この度、平成29年4月1日付で臨床薬剤疫学分野を担当させて頂くこととなりました。私は、平成11年に本学（病院薬学教室　現　臨床薬学分野）を卒業後、修士課程を経て16年間、三重大学医学部附属病院で臨床薬剤師として実務・研究・教育を行ってきました。

現在、様々な診療情報は電子化され、目的に応じて抽出、解析し易い環境になりつつあります。しかしながら、得られる情報をどのように利用し、活用すべきか未開拓な部分でもあります。国公私立薬学部で初めて新設されました「臨床薬剤疫学分野」では、こうした医療リアルワールドデータを用いて薬物の使用とその効果や副作用、薬剤師の介入による影響、医薬品の使用実態を明らかにします。また、得られた結果を基礎の研究室とも共有するなどして、基礎と臨床を繋ぐことも目指します。

本学における教育・研究の発展に尽力して参りますので、御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

基礎科学系
一般教育分野
教授　佐藤　毅（たけし）

この度、平成29年4月1日付で一般教育分野、薬学英語を担当させて頂くこととなりました。本誌面をお借りして、自己紹介をさせて頂きます。

私は平成16年3月に大阪大学大学院において博士号を取得の後、約2年間、米国ニューヨーク州のストーニーブルック大学においてアルツハイマー病関連タンパク質の構造解析に従事しました。平成17年4月から平成29年3月までは大阪大学蛋白質研究所において、助教、講師として、各種増殖因子受容体の機能発現機構の解明を目指した構造生物学的研究を行ってきました。

私は小中学時代を米国の現地校で過ごしました。そこでの経験とこれまでの研究者としての経験を薬学英語教育という形で発揮できることをうれしく思っています。グローバルな場で活躍するファーマシスト・サイエンティストの輩出に向け、尽力させていただきたいと考えております。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

バイオサイエンス研究センター
准教授　斉藤 美知子

4月1日付でバイオサイエンス研究センターに着任いたしました。奈良先端科学技術大学院大学を修了後、奈良先端大、理化学研究所脳科学総合研究センターを経て、再び奈良先端大へ研究員として戻り、学位を取得いたしました。助教として、学生指導をしながら動物実験施設の管理運営、研究サポート（遺伝子改変マウスの作製、胚凍結融解などの胚操作）の立ち上げ・運営を行い、研究では細胞特異的ノックアウト法の開発、小胞体ストレスと糖尿病の関連について解析を行っておりました。3年前に株式会社東芝へ転職し、奈良先端大に客員准教授として籍を置きながら、企業の経験もしてきました。

いろいろな組織を経験してきましたが、私立大学も薬学部も初めてのこととなります。わからないことも多く教えていただくことも多いかと思いますが、これまでの経験を活かし、動物実験に関する教育・研究の発展に尽力させていただきたいと思っております。皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

創薬科学系
生薬学分野

助教　中嶋（なかしま）　聡一

本年4月1日付で生薬学分野の助教に着任致しました。KPU$_{NEWS}$の紙面をお借りし、ご挨拶申し上げます。

私は平成22年に本学大学院にて博士（薬学）の学位を取得（吉川雅之 本学名誉教授）後、企業に勤めながら生薬学分野の研究員として本学に7年間所属し、この度本職を拝命した次第です。これまでに学内にて研究員としての私を見かけたことがあるという教職員の皆様、学生の皆様、関係者の皆様もいらっしゃると思います。基盤とする分野は生薬学ですが、現在までにがん細胞の転移抑制、神経細胞の分化促進、メラニン生成量の調節および小分子のターゲットタンパク質の解明などといった研究に携わってきました。

大学での教育経験は無く、教育といった点では不足の部分が多々あるかと思いますが、本学卒業生が社会で活躍できる人材となれるよう、微力ながら尽力する所存です。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

薬用植物園

助手　前田　晋作

この度、平成29年4月1日付で薬用植物園に着任いたしました。

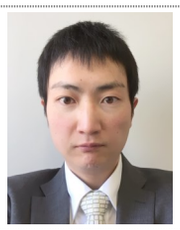
私は平成24年に兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科の専門職学位課程を修了後、本学の薬用植物園御陵園（旧薬用植物園補助園）に着任いたしました。

御陵園では学内外の多くの関係者の皆様のお力添えを賜りながら、施設整備、植栽管理、早期体験学習や天然医薬品学実習での見学補助、本学公開講座での見学等に携わりました。

今後は薬用植物園において薬用植物関連の教育・研究活動をさらに充実させていくことに努め、それらの活動を通じて本学の人材育成、研究活動の発展に貢献すべく尽力して参ります。

教育職員・事務職員の皆様、ならびに関係者の皆様には今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

四季折々の薬用植物の生きた姿を観察しに、薬用植物園および御陵園へ是非一度お越しください。



事務局
情報管理推進室

主事　北村（きたむら）　聡洋（あきひろ）

私は兵庫県出身で、徳島県内の大学へ進学し、卒業後は車載機器を製造する兵庫県の企業に就職いたしました。前職では自社の情報システムの基盤を企画・導入・運用する業務に従事しておりました。企業と大学の情報システムの仕組みは共通する部分も多くありますが、大学ならではの独自性を感じる点も少なくありません。それは私にとっては新鮮なものであり、前職以上に幅広い業務に携われることに非常にやりがいを感じ、日々職務に取り組んでおります。また、私が所属する情報管理推進室は4月1日に新設された部局であり、その立ち上げに関われることは大変光栄でございます。

これまでの経験を活かしながら、日々精進し、本学の発展に貢献できるよう尽力して参ります。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

昇任のご挨拶

創薬科学系
薬品化学分野

准教授　小林　数也

この度、平成29年4月1日付で薬品化学分野の准教授を拝命いたしました。私は平成19年に京都大学薬学部を卒業後、同大学院薬学研究科へと進学し、藤井信孝教授のご指導の下、平成24年に博士後期課程を修了いたしました。その後、同大学博士研究員として、3ヶ月半トロント大学のAndrei, K. Yudin教授の研究室に留学し、同年10月に本学薬品化学分野の助教として着任いたしました。

私は、有機化学、ペプチド科学を中心として、酵素の基質配列を基盤としたアルツハイマー病治療薬

の開発研究や、新規作用機序を有する抗がん剤開発研究など、創薬を目指した研究活動に取り組んでおります。また、教育面では「先端創薬学概論」「薬学総合演習」「有機化学実習」などの講義・実習を担当させていただいています。

薬が化合物である以上、薬の理解には有機化学の理解が必要不可欠であると考えます。まだまだ若輩者ではありますが、今後も私の専門である有機化学、創薬化学に関する研究・教育を通して、本学における薬学6年制教育の更なる発展に貢献していけるよう、尽力していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

創薬科学系
薬品製造学分野
准教授　小島 直人

本年4月1日付で薬品製造学分野の准教授を拝命致しました。私は平成11年に大阪大学薬学部を卒業後、同大学院に進学し、田中徹明教授（現 大阪大学名誉教授）のご指導のもと、博士号を取得しました。学位取得後は、（公財）相模中央化学研究所の研究員として、新規農薬の探索研究に従事しました。その後、平成17年に助手として母校に戻る機会を頂きました。そして、平成24年4月より本学薬品製造学分野の講師として教育・研究に携わって参りました。

現在、私は有機合成化学を基盤とした創薬化学研究、特に新規抗がんリード化合物の創製研究に取り組むとともに、教育面では薬品合成化学A・Bや有機化学実習などを担当して参りました。

薬学部6年制がスタートし早11年が経ちました。旧4年制の時と比較して、医療薬学分野の教育が大きく充実されましたが、全ての生命現象は有機化学反応の組み合わせで起こっていることから、有機化学の重要性に変わりはありません。私は、講義や研究室での研究指導を通じて、臨床現場で役立つ有機化学の修得を手助けしたいと考えております。本学の卒業生が薬に関わるあらゆる分野においてリーダー的立場で活躍できるように微力ながら尽力していく所存です。今後共皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

水中でぶつぶつ －第3話－

直行怪奇CPU

JR東京駅の地下に、横断幕「コインロッカー この下に1000口あります」。何と読むのか分からなかった。いくらJRでも“せんろ”はないで。1,000個というのもねえ。気づいた。“口”は“くち”かぁ？そうか！出し入れ口があるから“くち”なのか！生まれて初めて、ロッカーの数え方を知った。このあたりでようやく丸の内線の改札。そして、東京でお仕事をした数日後、新聞に「ロッカーを撮影し続けた英国写真家」という見出し。頭の中は勝手な方向に回りだした。そうか！あの単純な、それぞれの“口”が変わることもない集団的ロッカーを撮り続けたのか！えらいもんだ、おおよその写真家や画家の感性を呼ばないものを撮り続けるひともいるのだ。しかし、記事を読んで仰天。日本語は便利だということに気づいた。ロッカーという音で、RockerとLockerの2つの意味を成す。また、「文学部唯野教授（筒井康隆著 岩波現代文庫）」は、日本語と英語は語源が同じである。その証拠は“ロード”と“道路”を見よと言われている。これ以上書くと文学部不要論を煽るので止め。

勝手な方向に頭が回りだしたという落とし穴に堕ちこんだのは“ストライプの画家”と呼ばれている山田正亮の絵（「endless山田正亮の絵画」展）のせいだ。抽象的な静物画から始まり、ストライプに至り、面の交差による絵に至る約5,000の作品を残したそうだ。画面にストライプがぎっしりと余すところなく描かれている作品（今回は“Googleさん”に頼んでみましょう。作品集が見られます）が延々と続く。ボーダーシャツの柄が会場の半分ぐらい延々と続く。人生を賭けるという意味の“描きつづけたまえ　絵画との契約である”という言葉と、それぞれのストライプ画を描くための克明な創作ノートが残されている。人生後期の大壁画は、ここに至ったのかと感動を覚えさせた。で、無味乾燥な面の交差的なロッカーさえも撮り続けるひとがいると錯覚させたのは、山田という画家のせいだというような失礼なことは撤回し、JRの放送を「お客様の料理が済みますまで広く開けてお待ちください」と解する日々使用しているCPUのせいだと断定したい。

学長　後藤 直正

2017年度「白衣授与式」開催

Event.

教務課

2017年4月7日（金）午前10時から創立130周年記念館において、病院・薬局での実務実習を直前に控えた5年次生を対象に、将来薬剤師（医療従事者）となる者の責任と京都薬科大学の学生であることの自覚を再度認識してもらうため、白衣授与式を開催しました。

式典では、5年次生の代表者2名が学長から白衣を授与された後、全員が校章と大学名の入った白衣を着用しました。その後、後藤学長から式辞、矢野臨床薬学教育研究センター長から「実務実習に向けた心構え」、教育後援会を代表して謝会長から挨拶が述べられました。

最後に5年次生の代表から「本学の建学の精神である愛学躬行の精神を心に抱き、立派なファーマシスト・サイエンティストになるべく、本学の学生らしい意欲と態度で実習に臨む」との誓いの言葉が述べられ、閉式となりました。

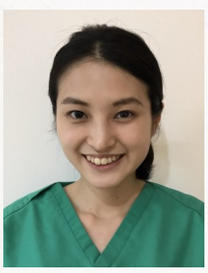
白衣授与式の様子

卒業生からのメッセージ

Column.

継続は力なり

広中 梨沙



2015年 学部卒業
（病態生化学分野）
京都府立医科大学附属病院
薬剤部

みなさん、今打ち込んでいるものはありますか？

私は、在学中バスケットボール部に所属し、毎日練習に打ち込んでいました。チームが試合に勝つために貢献できることは何かを考え、目標を立てて取り組むようにしていました。小さなことでも、できるようになったことが嬉しかったり、ミスを反省したり･･･一喜一憂していたのも良い思い出です。そして、蒸し風呂のような暑い体育館で一緒に頑張った仲間は宝物です。卒業後、多方面で薬剤師の職能を発揮している仲間と話すことは、とても良い刺激を受けます。

私は、病院薬剤師として3年目を迎えました。1年目から病棟に上がり、患者さんの薬学的治療管理や服薬指導に関わらせていただいています。患者さんにとって病棟での経験年数は関係なく、最初は分からないことばかりでした。何が自分に足りないかを考え、一つ一つ課題をこなしていく中で、少しずつ医薬品を取り扱う楽しさを実感してきました。その他には、治療的薬物モニタリング(TDM)の業務をしています。免疫抑制剤や抗てんかん薬、抗菌薬の血中濃度を測定し、投与量の管理に関わっています。TDMは薬物動態学の考え方を元にしており、他職種と関わりながら、薬剤師の視点から薬物治療に介入することができます。抗菌薬については、血中濃度を評価・解析し、医師と相談し投与設計をしています。TDMの目標は患者さんの薬物治療が奏効することであり、血中濃度を有効域に入れることではありません。患者さんの今の病態を評価し、さらに今後の変動を予測して、様々なことを考えながら解析しています。直接、患者さんの治療につながるため、責任は重く、迷うこともたくさんあります。症例を重ねていくうちに、TDMの奥深さや他職種との関わりの中での薬剤師のやりがいを感じています。

私が大学時代に部活の中で学んだ、目標を立てて忍耐強く取り組むことや、チームの中での自分の役割を考えて行動することは、働き出してから非常に役に立っています。在学中に、勉強はもちろんですが、何か打ち込めることを持って全力投球してください。それは必ず社会に出ても活きてきます。一生懸命取り組んでいると、最初は大変で辛いことも、できることが増えるに従い楽しみにかわってくると思います。1日1日を大切にして、出会った人とのつながりを大事にして頑張ってください。

特集

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミクスの確立」終了報告

私立学校は我が国の学校教育のなかで大きな役割を果たしており、国はその振興を図るために、法令に基づいて各種の私学助成を行っています。私立大学に対しても複数の事業が文部科学省で予算化されており、各大学が計画調書等を作成・応募し、採択された大学には補助金が交付されます。

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業はその1つであり、本学は、平成20年度に2件、平成24年度に1件、平成25年度に1件、平成27年度に2件採択され、それぞれ3年または5年の研究期間で補助金を受け、本学の研究活動に役立てています。

本特集では平成28年度を最終年度として終了しました「バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミクスの確立」について、研究代表者の安井教授から報告いただきます。

本学では本年度も3件の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノDDSの創成」、「優良和薬の確保・供給のための研究」、「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」に取り組んでいます。

研究・産学連携推進室 室長　武野 薫

Feature article.

研究代表者　安井 裕之

2016年度成果発表会実施報告書

日時：2017 年 5 月 20 日（土）13:00 ～16:00
会場：京都薬科大学 愛学館3階 愛学ホール
参加者数：36名（職員16名、学部生･大学院生18名、企業関係者2名）

2017年5月20日（土）に愛学ホールにて2016年度の成果発表会を開催しました。本学では、2016年度末までに4つの文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（戦略基盤事業と略する）が採択され、学内の多くの分野で研究活動が実施されてきました。その中で、2012年度に採択された戦略基盤事業である「バイオメタルと生体反応の連関解明に基づいた疾患治療ファルマコメタロミクスの確立（代表：安井裕之）」（以下「バイオメタル」）は、2016年度をもって5年間の事業最終年度を迎えました。今回は、5年間の総括を含め、2016年度の「バイオメタル」の成果報告発表会を行いました。

発表会では、学内で本プロジェクトに参画する全ての教員が会し（薬理学分野の藤井正徳准教授は海外留学中のため欠席、病態生理学分野の高田和幸准教授は他学会での招待講演のため欠席されましたが、病態生化学分野の石原慶一講師が代表して講演されました）、各々のプロジェクトにおける研究成果が、口頭（7演題）により発表されました。また、学外研究者としてご参画いただいている神戸女子大学の吉川豊先生も口頭発表をされ、大阪薬科大学の中村任先生には共同研究者として会の初めから終わりまで会場にご参加いただきました。

発表会当日は、36名の方々（職員：16名、学部生・ 大学院生：18名、企業関係者：2名）の参加のもと、活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに終了しました。学部生・大学院生も参加していただき、本学の研究面におけるアクティビティーの高さを十分に感じてもらえたのではないかと思っています。

文部科学省から供されている本事業のミッションは、「研究拠点の形成」と「若手研究者の育成」でありました。5年間の成果の1つとして、バイオメタルに関連する薬学領域の先端研究を学内に浸透させること、及びこれを実際に推進するための大型装置を含めた基盤整備については大きく進みました。同時に、大学院生を含めた学内における若手研究者の研究アクティビティーの活性化に繋がったのも確かです。今後は、次代を担う若手研究者を中心とした学内共同研究がより活発になること、薬学領域におけるバイオメタル関連研究で本学が国内をリードしていることを学会

発表やシンポジウム講演によりアピールすること、学内研究グループの独自研究提案による外部研究資金の獲得などに繋げていく必要があるでしょう。これからも、本事業の5年間で得られた多くの蓄積や人脈を活かしていくことで、本学におけるリサーチマインドの醸成と研究アクティビティーの維持に尽力していきたいと考えています。

後藤 直正 学長

安井 裕之 代表

辻本 雅之 講師

天ヶ瀬紀久子 講師

小原 幸 准教授

【プログラム】

＜開会の挨拶＞ 後藤 直正（京都薬科大学長）

「プロジェクトの概要と中間経過について」 安井 裕之（代謝分析学分野・教授、代表）

＜疾患と生体反応のメタロミクス＞（座長：安井 裕之）

「末期腎不全患者における薬物体内動態および薬物応答性の変動に及ぼすバイオメタルの影響」
辻本 雅之（臨床薬学分野・講師）

「ビスホスホネート系薬剤による消化管傷害における生体内微量金属とのキレート形成との関連」
天ヶ瀬 紀久子（薬物治療学分野・講師）

「心疾患、腎疾患における微量金属と酸化ストレス」 小原 幸（臨床薬理学分野・准教授）

＜中枢疾患におけるバイオメタルによる生体反応制御分子メカニズムの解明＞（座長：小原 幸）

「ダウン症モデルマウスを用いた解析」 石原 慶一（病態生化学分野・講師）

「アルツハイマー病モデルマウスを用いた解析」 高田 和幸（病態生理学分野・准教授）

「亜鉛によるグリア細胞機能制御 Zinc-mediated regulation of glial cell function
－気分障害発症機構の理解への展開－」
長澤 一樹（衛生化学分野・教授）

＜金属錯体による疾患治療＞（座長：石原 慶一）

「生活習慣病治療を目指した金属イオン・金属錯体の探索研究」
吉川 豊（神戸女子大学 健康福祉学部・教授）

＜イメージング分析とトランスレーショナル研究＞

「トレーサーによるメタル分析および臨床メタロミクス解析」 安井 裕之（代謝分析学分野・教授）

＜閉会の挨拶＞ 安井 裕之（本事業・研究代表者）

石原 慶一 講師

長澤 一樹 教授

吉川 豊 教授

質疑応答の様子

5年間に渡る研究活動を振り返って

文部科学省が、私立大学における教育研究活動の振興や充実を目的に研究資金を助成する事業として立ち上げられた「文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（以下、戦略基盤事業と略す）」について、まず初めに紹介します。戦略基盤事業は、私立大学が各大学の経営戦略に基づいて行う研究基盤の形成を支援するため、研究プロジェクトに対して重点的かつ総合的に文部科学省が補助を行う事業であり、その成果としてわが国の科学技術の進展に寄与することを目的としています。これを受けて、各大学が最先端の研究や地域に根差した研究などの観点から研究プロジェクトを計画・申請し、文部科学省が厳密な審査のうえで選定を行い、その中から採択された当該プロジェクトを遂行するための研究拠点に対して、研究施設・設備整備費や研究費を一体的に補助します。研究期間としては、「研究拠点を形成する研究」については5年間、「大学の特色を活かした研究」もしくは「地域に根差した研究」の場合は3年間となります。そして、5年間の研究プロジェクトでは開始から3年目に中間評価が、最終年度には事後評価が実施され、研究活動の成果が一般社会を含めて幅広く公表されます。

また、戦略基盤事業は、政府の「大学の構造改革の方針」（2001年9月）に基づいて文部科学省の事業（研究拠点形成費等補助金）として措置された「21世紀COEプログラム」の事業終了後を受けて、わが国の私立大学のみを対象に設けられた大型の私学助成プログラム（2008年度から助成が開始され2015年度に新規採択が終了）として位置付けられます。因みに本学は2004年度よりの5年間、東京大学薬学部に次いで、わが国の薬学部としては2番目に21世紀COEプログラムの拠点に選定されていました。その後、本学では2件の研究プロジェクトが2008年度より戦略基盤事業に採択されていましたが、これらは2012年度をもって全て終了となり、学内の共同研究プロジェクト体制は構成メンバーである教員層が大きく若返ることとなりました。

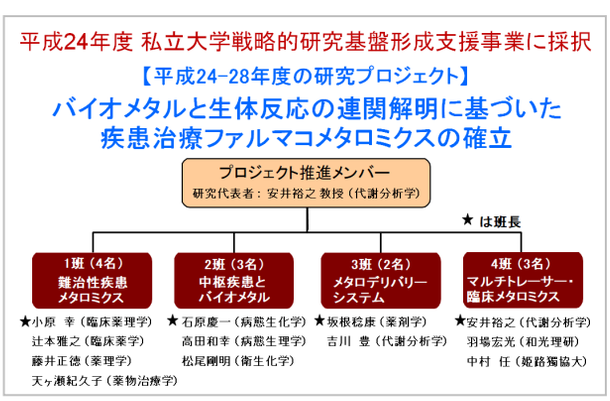
本プロジェクトの代表を務める安井は、生体必須微量金属（バイオメタル）の分析化学と薬学領域への応用を主たる研究対象として1997年から10年以上に渡り国内外で研究活動を展開してきた関係から、折しも2007年に発足した国際メタロミクスシンポジウム（International Symposium of Metallomics; ISMと略する）および2008年に国内で発足したメタロミクス研究フォーラムの主要メンバーの1人として学会活動の普及に参画することとなりました。「メタロミクス（metallomics）」と言う概念・科学用語は、原口紘炁名古屋大学名誉教授が2002年6月の徳島化学工学研究会で提唱された事が、今の世界での始まりです。原口先生は研究会での招待講演で『「メタロミクス」を生体金属に関連した研究分野の総合化をはかるための新しい科学領域として提唱します。メタロミクスは、ゲノミクスおよびプロテオミクスと共生する科学でなければなりません。なぜならば、種々の金属イオンと金属酵素の支援なくしては、遺伝子(DNA、RNA)の合成も、タンパク質の代謝機能発現もできないからです。メタロミクスでは、ゲノミクスにおけるゲノム、プロテオミクスにおけるプロテオームと同様に、金属タンパク質、金属酵素、そしてその他の金属結合生体物質を「メタローム」と定義します。』と話されています。その後にも原口先生は、日本・米国・欧州から集められたISM設立者の1人として第1回のISM国際学会を2007年に名古屋で主催され、その後に英国化学会から刊行された国際学術雑誌であるMetallomics誌のEditorial board 委員を創設時から務められました。このような背景のもと、国内でのメタロミクス関連学会を主催するように原口先生から安井に直接依頼があり、第2回のメタロミクス研究フォーラムを2010年の11月に本学の愛学ホール他で開催する運びとなりました（その時の参加者の集合写真です。中央に写っているのが、脳内バイオメタルの制御によるアルツハイマー病治療の臨床研究で今を時めくオーストラリアのAshley I. Bush教授です。招待講演でお呼びしました）。

第2回メタロミクス研究フォーラム　2010年11月2・3日　於：京都薬科大学

前置きが少し長くなりましたが、本学内の共同研究プロジェクトの体制を若手教員で再構成する転換期と、メタロミクスと言う新しい研究領域が国内外で立ち上がる黎明期とがちょうど重なるタイミングだったのです。この状況を鑑みて、戦略基盤事業へ本学が新たに申請する研究内容を纏めるにあたり、安井が代表者として本学内に研究プロジェクトチームを構成し、薬学とバイオメタルを結びつける新しい学問領域として「ファルマコメタロミクス Pharmaco-metallomics」の考え方を提案することになりました。概念のみを記しても理解していただくには不十分ですので、計画案の具体的な中身をもう少し詳しく紹介します。

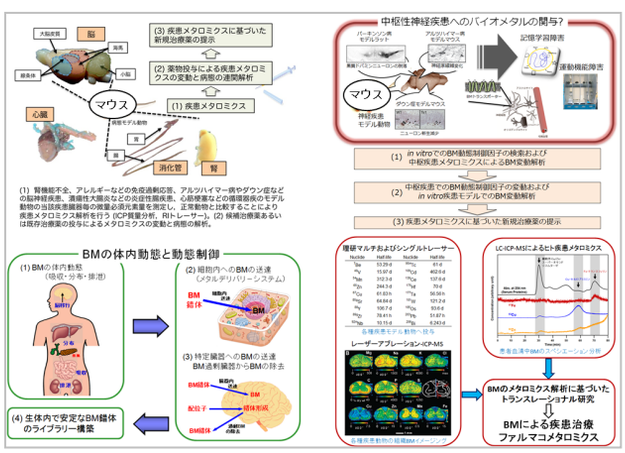
本研究プロジェクトでは、生体に必須である微量金属元素（バイオメタル；鉄、亜鉛、銅、マンガ

ン、セレン、コバルト、クロム、モリブデンなど）による様々な生体反応への影響、特にバイオメタルが関与する病態の分子メカニズムを解明し、その知見に基づいてバイオメタルを特定の場所へ特定の時間・タイミングで人為的に操作することによって生体反応を制御し、疾患を治療することを目指した計画を立案しました。バイオメタルが人体の多くの生理作用に重要な役割を果たしていることは明らかであり、既に教科書レベルの知識となっています。加えて、バイオメタルが病態時には健常時と異なる組織分布や濃度変化をとることも知られています。これらの科学的な事実を受けて、上記の様にメタロミクスの概念が21世紀に入ってから提唱された訳です。しかし、これまでは病態時におけるある瞬間のバイオメタルの時空間分布をスナップショットした研究報告が主であり、外界からの刺激に対するバイオメタルのダイナミックな動態とそれに伴う生体の応答性（生体反応）にまで踏み込んだ研究例は限られていました。言い換えれば、疾患を治療する個々の医薬品に対する生体反応が、バイオメタルとどのように連動して応答しているのか、それによって医薬品の治療効果がどのように影響を受けているのか、多くは不明のままなのです。そこで、本研究プロジェクトでは、バイオメタルによる生体反応の変化を明らかにし、そのメカニズムの一部を解明し、それを制御することによって医薬品の治療効果を一層高める疾患治療法であるファルマコメタロミクスの確立と提唱を目指すことにしました。これを実現するため、構成メンバーとして主に若手教員が実働することを念頭に置き、学内に以下の4つの研究班を設け、それぞれが連関して研究を推進するプロジェクトチーム（メタロミクスリサーチチーム）を立ち上げました。次に、4つの班の分担内容について簡単に紹介します。



「1班：難治性疾患のメタロミクス分析と生体反応の連関解析」病態時におけるバイオメタルの変動と医薬品に対する生体反応との連関を解析することを目的とし、これらの解析結果に基づいて医薬品の効果に重要な役割を果たしているバイオメタルを明らかにすることを試み、難治性疾患の病態解析を基盤とした研究分野が参画されました。具体的には、心筋梗塞や胸部大動脈縮搾による圧負荷心肥大などの循環器疾患（小原幸 臨床薬理学分野・准教授）、慢性腎障害（辻本雅之 臨床薬学分野・講師）、アレルギー性疾患などの免疫応答異常（藤井正徳 薬理学分野・助教）、クローン病・潰瘍性大腸炎・小腸潰瘍などの炎症性腸疾患（天ヶ瀬紀久子 薬物治療学分野・助教）になります。

「2班：中枢疾患におけるバイオメタルによる生体反応制御分子メカニズムの解明」バイオメタルが引き起こす生体反応の病態による変化をインビトロにおいて分子レベルで解明することを目的としました。対象は中枢疾患に的を絞り、この領域の研究実績を有する研究分野が参画されました。具体的には、ダウン症（石原慶一 病態生化学分野・講師）、アルツハイマー病（高田和幸 病態生理学分野・助教）、グリア細胞の機能解明（長澤一樹 衛生化学分野・教授）などの脳神経疾患において、脳・神経細胞の障害と保護、および恒常性維持におけるバイオメタルとメタルトランスポーターやメタロプロテインの分子メカニズム解明になります。



「3班：疾患治療を目指したマイクロカセットドーズによるバイオメタルの時空間分布と生体反応の制御」生体反応を制御するためにバイオメタルの体内分布を意図的に変動させるための革新的金属錯体及びメタルデリバリーシステムの構築と、それによる生体反応の制御を目的としました。対象は、バイオメタルの体内動態解析とキャリアー分子による時空間制御送達であり、具体的には、オリジナルに合成した金属錯体を用いてバイオメタルを適度に補足することによる細胞内濃度の制御（吉川豊 代謝分析学分野・講師）、血液－脳関門を越えての脳内への送達（坂根稔康 薬剤学分野・准教授）になります。

「4班：マルチトレーサーによる病態におけるバイオメタルの時空間分布解析とトランスレーショナル臨床研究」4班は他とは少し指向を変え、本研究プロジェクトを通じて研究拠点形成を構築すべく、他機関との基礎的および臨床的共同研究を実施し、本研究成果のトランスレーショナル・リサーチとしての評価を高めることを目的としました。基礎研究の対象は、安井が長年、客員研究員として所属している

理化学研究所との共同で、放射性トレーサーを用いたバイオメタルの体内分布解析と生体反応との連関解析です。臨床研究の対象は、医療機関（神戸大学など）と共同で、主にがん患者血清中の70種類に及ぶバイオメタルをメタロミクス分析し、疾患治療の解析に貢献することです。これを実現するために、共同研究者（羽場宏光 理化学研究所 仁科加速器研究センター・主幹研究員、中村任 姫路獨協大学薬学部・教授）の参画をお願いしました。

5年間の研究期間で、2012年6月にキックオフシンポジウム、2014年11月に中間報告の成果発表会、2015年8月に4年目の成果発表会、そして今回2017年5月に最後の成果発表会を企画、開催してきました。それぞれの発表会には学内外から多くの方にご参加いただき、最新の研究成果の発表と活発な質疑応答が行われました。特に、2014年と2015年の発表会では、実際に研究を遂行された多くの大学院生や学部生が口頭やポスターで発表し、日頃の実験や研究活動の成果を存分に公表してくれました。本学に所属する若い人たちの熱意を持って発表する姿や、自分の実験結果について教員としっかり討論する光景に、大変心強く感じると共に頭が下がる思いでした。こういった経験や研究活動に対する思いや行動が、彼らの将来に必ず活きてくるのは間違いないでしょう。これら若い在学生の活躍が、正に本学の伝統とブランドを継続し、今後も高めていくものと強く確信しています。同時に、これは言うまでもなく、本プロジェクトに参画された先生方の熱心な取り組みがあったからこそ、本プロジェクトの現時点での目標は十分に達成されたものと考えています。6年制薬学教育に移行し、学内における大変多忙な教育研究活動の日々の中で、研究成果を纏めるには大変な努力があったことは想像に難くありません。先生方のご尽力には、この場を借りて厚く感謝申し上げます。この5年間に、参画された先生方には昇任や栄転もありました（藤井先生は准教授、 天ヶ瀬先生は講師、高田先生は准教授、坂根先生は神戸薬科大学の教授、吉川先生は神戸女子大学の教授）。日々の活動の中で、高いモチベーションとアクティビティーを維持されたことが良い方向へ結びついたものと信じます。今回の成果をさらに深められ、先生方の研究領域がますます発展していくことを期待します。

本事業の最終成果については、81報の関連論文が学術雑誌に掲載、12冊の関連図書が出版、学会発表数は国内外を合わせて240件となっています。また、各受賞等については22件が挙がっております。これらの詳細は、紙面の関係から本学HP上に公開されている最終報告書をご覧いただけたらと存じます。近々には、2017年3月の日本薬学会年会シンポジウムにおいて、長澤先生と吉川先生がバイオメタルに関する講演をされました。また、2017年11月には第5回のメタロミクス研究フォーラムを本学で再び開催する予定です。学内のみならず学外にも積極的なアピールを継続して「研究の京都薬大」を十分に認知してもらうこと、外部研究資金の獲得に繋げていくことが肝要になるでしょう。

最後になりましたが、本事業の企画、立案、遂行に多大なるご理解とご協力を賜りました武田禮二本学前理事長、乾賢一本学前学長、後藤直正本学学長に厚くお礼を申し上げると共に、事務方として大変ご尽力いただき本学事務局の前田朋宏さん（申請時）、坂口由美子さんに厚くお礼申し上げます。

本事業を代表して
安井 裕之 代謝分析学分野・教授

注：文中の所属及び職位については、プロジェクトの申請当時のもので掲載しております。

NEWS 人　事

昇任

事務局研究・産学連携推進室　課長補佐 栗田　晃
事務局庶務課　係長 山口　貴
事務局学生課　主査 建部 有里
事務局企画・広報課　主査 神田　悟
事務局施設課　主事 山川 晋平
（以上2017.1.1付）

配置換

事務局情報管理推進室　課長補佐 栗田　晃
（前 事務局研究・産学連携推進室）
（2017.4.1付）

任命

事務局情報管理推進室室長代理 課長補佐 栗田　晃
（2017.4.1付）

兼務

事務局研究・産学連携推進室　課長補佐 栗田　晃
（事務局情報管理推進室）
事務局情報管理推進室　主事 山川 晋平
（事務局施設課）
（以上2017.4.1付）

任期満了

契約教員　講師 西川　哲
（バイオサイエンス研究センター）
（2017.6.30付）

主催：文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
後援：一般社団法人京都府薬剤師会

市民公開講座「乳がん」開催

Event

がんプロコーディネーター／臨床腫瘍学分野 教授 吉貴 達寛

日時：2017年2月11日（土・祝）14：00〜16：20
場所：京都薬科大学 愛学館3階 愛学ホール
参加者数：94名（一般38名、学部生・大学院生30名、職員24名、記入なし2名）

概要：本市民公開講座は、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（以下、がんプロコース）主催のもと、一般市民の方々に向けて、がん診療に対する知識の啓発活動の一環として行われ、今回は乳がんの、①緩和ケア、②最近の治療の進歩について、滋賀医科大学附属病院　薬剤部治験等管理室長　森井博朗先生、京都大学医学部附属病院　乳腺外科教授　戸井雅和先生からご講演をいただいた。

内容：まず、滋賀医科大学医学部附属病院（以下、滋賀医大病院）薬剤部治験等管理室長の森井博朗先生から、「もっと『緩和ケア』のことを正しく知ろう！〜「こころ」と「からだ」の痛みを和らげるがん医療を目指して」と題して、緩和ケアに関するご講演をいただいた。

最初に緩和ケアの歴史について説明があり、続いてがん医療における緩和ケア、緩和ケアを受ける時期、痛みの治療方法について、市民の方にご理解していただくためにわかりやすく説明がなされた。特にがん疼痛に使用する医療用麻薬に関しては市民の関心度が高いことにも鑑み、WHO方式がん疼痛治療法のがん疼痛目標や三段階除痛ラダーの説明だけでなく、医療用麻薬の誤解を解くために医療用麻薬と不正麻薬の違いとモルヒネ依存や耐性抑制のメカニズムについてイラストを用いて説明がなされ、特にオピオイドの痛みがある場合には医療用麻薬を使用しても依存症にならないことを強調された。

またがんと診断された時からがん治療と同時に緩和ケアが行われることの重要性を説明され、緩和ケアは決して特別な治療ではないことを強調された。最後に、滋賀医大病院でのがん患者サロンやがん教室の紹介があった。講演終了後に市民の方々から、「医療者にどのように痛みを伝えればいいのか？」、「医療現場に緩和ケアがどれぐらい浸透しているのか？」などの質問があり、一般市民の方だけでなく、医療従事者も緩和ケアについての正しい理解を深め、緩和ケアの普及が急務であることを改めて認識できた講演であった。

引き続き、京都大学医学部附属病院 乳腺外科教授戸井雅和先生から「最近の乳がん治療の進歩」と題してご講演をいただいた。戸井教授はSt. Gallenコンセンサス会議にVotingを行うパネラーとして参加される本邦を代表する乳がん治療のエキスパートである。

本講演は、数字の“5”に合わせて展開されており、まず乳がんの発生頻度が、わが国や東洋で“50歳代”に最も高いことが紹介された。また乳がんは治療の観点から“5種類”に分けて考え、ホルモンやサイトカインの受容体であるエストロゲン受容体およびHER2の発現により4つに分類され、エストロゲン受容体陽性/HER2陰性乳がんを概念的におとなしい乳がんと高悪性度乳がんの2つに分類されることが紹介された。

発見される際の乳がんの大きさについて、欧米のデータが紹介された。早期がんとはin situ癌、1.0 cm未満、1.0-1.9 cmのサイズのものをいい、発見された乳がんのうち、それぞれ22%、18%、27%であり、画像的検査で1.0 cm未満、1.0-1.9 cmのサイズのものが発見される。触診で発見される2.0-2.9 cm大の乳がんは15%、3.0-4.9 cm大の乳がんは11%、5.0 cm以上の乳がんも7%であった。

また治療法も手術療法、放射線療法、ホルモン療法、抗がん剤、および分子標的治療薬の“5種類”であることが紹介され、5種類の乳がんの特徴に見合うように、5種類の治療法が選択されるということであった。エストロゲン受容体陽性/HER2陰性乳がんのうち、高悪性度の乳がんには、抗がん剤治療、ホルモン療法の強化（併用療法や長期間治療法）、新規の分子標的治療薬による治療が組み合わせて行われるとのことであった。さらに、乳がんに対して治療効果が期待できる新規分子標的治療薬として、CDK4/6阻害薬とPARP阻害薬が紹介された。またHER2陽性乳がんは本来悪性度が高い乳がんではあるが、がん遺伝子HER2の遺伝子産物であるHER2タンパク質に特異的に結合するトラスツマブの登場により、治療成績はめまぐるしく向上し、現在ではトラスツマブに細胞毒性物質DM1（エムタンシン）を結合させた抗体薬物複合体T-DM1（商品名：カドサイラ）が登場し、さらに治療成績の向上が期待できるとのことであった。

森井 博朗 先生

戸井 雅和 先生

手術と放射線療法を組み合わせた治療法では、局所のエスカレーションとデスカレーション、2つの方向性が現在の主流であることが示された。エスカレー

ションの考え方としては、予防的に（全）乳房切除術を行い、かつ乳房再建術を施すもので、一方のデスカレーションとしては、狭い範囲の切除でよいものは小さく乳房を切除する、術前治療を行い狭い変異に絞り小さく切除するというものである。またリンパ節転移に対する手術としては、一番初めにリンパ行性に転移するセンチネルリンパ節の術中生検による病理診断で行うが、近年では腋窩リンパ節への転移を画像的に評価し、転移のない場合、限られた転移が認められる場合、広く転移が認められる場合とに分けて、それぞれ放射線療法とリンパ節廓清手術の適応を考えるようになっている。ホルモン療法が有効な症例においては通常5年間行うが、再発リスクの高い場合は10年間のホルモン療法を行う。

乳がんのリスク要因としても遺伝、女性ホルモンの暴露（出産時期、授乳の有無）、肥満、運動、および生活習慣の“5つ”が挙げられ、特に遺伝的要因としては、損傷を受けたDNAを修復するBRCA1/2タンパク質をコードするがん抑制遺伝子BRCA1/2の変異が挙げられ、70歳まで87%（卵巣がんで44%）が発症する。アメリカの女優のアンジェリーナ・ジョリーが乳がん発症のリスクを下げるために予防的に乳房切除術を受けたことは有名な話である。

最後にトリプルネガティブ乳がんについて話があった。トリプルネガティブ乳がんとは、エストロゲン受容体、HRE2、プロゲステロン受容体の3つが陰性の予後不良の乳がんである。この乳がんにはいくつものサブタイプがあり、BRCA1/2遺伝子変異を初め、多くの遺伝子変異が混ざったグループであり有効な治療薬がなかったが、先に述べたPARP阻害薬が期待できる新規治療薬として挙げられた。

講演終了後、聴衆者からいくつもの質問があり、乳がん治療の最新の情報を共有することができた。

終了後、アンケート調査を行い、64名の聴衆から回答をいただいた。プログラム内容・構成、講師について、おおむね多くの方々から「大変満足・満足」という結果をいただいた。ただ広報活動については、「もっと広くアナウンスされたら」というご意見をいただいた。我々もこの点については、さらに改善すべき点と認識しており、今後の公開講座の開催までに対策を講じていきたい。

※当日実施しましたアンケート結果は、本学WEBサイトに掲載しております。

講演風景

第8回「KPUシンポジウム」開催

Event.

KPUシンポジウム実行委員会

2017年5月2日（火）、京都薬科大学・躬行館T31講義室において、第8回KPUシンポジウムを開催しました。特別講演として本学出身の片山泰一先生をお迎えして、「社会から求められている学際領域の重要性－製薬会社、アカデミアから社会連携に至る自身の経験から－」という演題で、ご自身の幅広い分野でご活躍される経験をもとに、薬学領域の幅広い可能性を含めてご講演をいただきました。一般公演として新任の本学の教員（楠本先生、小田先生、河嶋先生）および留学から帰られた武上先生から合計4題の講演をいただきました。合計308名の多くの学生や教員の方々がご参加くださいました。シンポジウム終了後の茶話会では17時40分頃まで、演者を囲んで学生を中心に熱心に質問が飛び交っておりました。

今回も座長先生方をはじめ多くの先生方からの多大なご協力を頂きましたことを深謝致しますとともに、今後とも引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

■ シンポジウムにおける講演の様子

大阪大学大学院 大阪大学･金沢大学･浜松医科大学･千葉大学･福井大学･連合小児発達学研究科･分子生物遺伝学研究領域
片山 泰一 教授

臨床薬学教育研究センター
楠本 正明 教授

微生物・感染制御学分野
小田 真隆 教授

薬品分析学分野
武上 茂彦 准教授

放射性同位元素研究センター
河嶋 秀和 准教授

講演風景

■ シンポジウム概要

日時：2017年5月2日（火） 14：00〜16：40
場所：京都薬科大学・躬行館3階 T31講義室

開会の挨拶 後藤 直正 学長

特別講演 14：05〜14：55（座長：衛生化学分野 長澤 一樹 教授）
「社会から求められている学際領域の重要性
ー製薬会社、アカデミアから社会連携に至る自身の経験からー」
片山 泰一 教授
大阪大学大学院 大阪大学･金沢大学･浜松医科大学･千葉大学･福井大学
連合小児発達学研究科・分子生物遺伝学研究領域

一般講演1 15：10〜15：35（座長：臨床薬学教育研究センター 橋詰 勉 教授）
「医療薬学と薬剤師」
楠本 正明 教授（臨床薬学教育研究センター）

一般講演2 15：35〜16：00（座長：細胞生物学分野 藤室 雅弘 教授）
「機能性糖脂質を利用した新たな感染制御法の開発」
小田 真隆 教授（微生物・感染制御学分野）

一般講演3 16:00〜16：20（座長：薬剤学分野 勝見 英正 准教授）
「リポソームを用いた電気化学発光の信号増幅戦略ードイツ・レーゲンスブルク大学での研究ー」
武上 茂彦 准教授（薬品分析学分野）

一般講演4 16:20〜16：40（座長：臨床薬理学分野 小原 幸 准教授）
「酸化LDLが有する新規生理活性の探索に向けてー放射性トレーサー法を用いた検討ー」
河嶋 秀和 准教授（放射性同位元素研究センター）

2017年度 試験関係日程

教務課

《試験日程》

2017年度の試験日程は【表1】のとおりです。シラバスをよく読み、各学年とも進級・卒業要件を確認してください。時折、試験日時を間違うケースが見受けられます。各自注意して試験に臨んでください。

再試験の受験手続は、指定の手続期間に必ず行ってください。手続時に発行する再試験受験許可書・領収書」は、再試験を受験する際に必要です。紛失しないように大切に保管してください。万が一紛失した場合は、再試験受験までに教務課で再発行を受けてください。

人と文化選択科目の不合格科目については、再試験手続をしなかった場合、放棄とみなします。放棄科目については、履修した年度内は平均点に算入されますが、翌年度以降は平均点の算出対象外となります。

シラバス「学修の手引き」のページにも、試験制度の詳細や受験にあたっての心得が掲載されていますので、よく読んでください。*

【表1】

年	試　験	試験期間	合格発表等	手続期間
2017	1～4、6年次生　前期試験	7月21日(金)～ 8月1日(火)	8月23日(水)に発表予定 (Web公開)	－
	2～4年次生 前年次・前々年次科目再試験	9月1日(金)～ 9月6日(水)	成績通知書を配付	4月20日(木)・21日(金)
	1～4年次生 前期科目再試験	9月7日(木)～ 9月13日(水)	成績通知書を配付	8月24日(木)・25日(金)
	6年次生 前期科目再試験Ⅰ	9月1日(金)～ 9月6日(水)	9月14日(木)に発表予定 (Web公開)	8月24日(木)・25日(金)
	6年次生 前期科目再試験Ⅱ	9月21日(木)・22日(金)	成績通知書を配付	9月15日(金)・19日(火)
	4年次生 薬学共用試験／OSCE本試験	12月16日(土)・17日(日)	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
2018	6年次生 アドバンスト薬学本試験	1月10日(水)・11日(木)	1月19日(金)に発表予定 (Web公開)	－
	4年次生　後期試験	1月17日(水)～ 1月19日(金)	1月29日(月)に発表予定 (Web公開)	－
	1～3年次生　後期試験	1月19日(金)～ 1月29日(月)	2月13日(火)に発表予定 (Web公開)	－
	4年次生 薬学共用試験／CBT本試験	1月25日(木)・26日(金) ※いずれか1日を受験	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
	6年次生 アドバンスト薬学再試験	1月31日(水)・2月1日(木)	卒業査定会終了後に 成績通知書を配付	1月22日(月)・23日(火)
	4年次生 後期科目再試験	2月6日(火)～2月9日(金)	2月16日(金)に発表予定 (Web公開)	1月30日(火)・31日(水)
	1～3年次生 後期科目再試験	2月22日(木)～ 3月1日(木)	進級査定会終了後に 成績通知書を配付	2月14日(水)・15日(木)
	4年次生 前・後期科目再試験Ⅱ			【前期科目】 1月30日(火)・31日(水) 【後期科目】 2月19日(月)・20日(火)
	4年次生 薬学共用試験／CBT追・再試験	3月6日(火)	発表・手続方法については 掲示等でお知らせします	
	4年次生 薬学共用試験／OSCE追・再試験	3月8日(木)		

《成績通知・合格発表日程》

【表2】の日程で成績通知書を配付します。1～2年次生は学生相談員から、3～6年次生は分野主任から、学生証提示の上、受け取ってください。代理受取はできません。

なお、成績通知書は、必ず配付期間中に受け取るようにしてください。

【表2】

区　分	年　次	配付日程	保証人(父母)への送付
前期終了時の成績通知書	1～4年次生	10月2日(月)～10月10日(火)	10月下旬
	6年次生	10月6日(金)～10月13日(金)	
後期終了時の成績通知書	6年次生	2月15日(木)～(卒業査定会終了後に配付)	―
	1～5年次生	3月22日(木)～(進級査定会終了後に配付)	4月中旬～下旬

＊この場をお借りして、シラバス内の「学習の手引き」で「1～3年次生後期科目再試験」と「4年次生前期および後期科目再試験Ⅱ」の結果発表・成績通知書配布日を「3月23日（金）」と記載していますが、正しくは「3月22日（木）」です。お詫びして訂正します。

第1回「クリニカルリサーチマネジメントプログラム」開催

Event.

実践薬学コース 医薬開発ユニット担当：教授 矢野 義孝

2016年度から、臨床開発業務について英語で学ぶ「クリニカルリサーチマネジメントプログラム、Clinical Research Management Program、以下CRMP」が本格的に開始されました。CRMPはパレクセル・インターナショナル株式会社との共同プログラムで、2016年度は2017年1月23日から3月10日までの7週間で実施されました。

7週間のプログラムは、臨床開発業務のための英語（3週間）、規制関連業務（1週間）、臨床試験の実際（2週間）、データマネジメント（1週間）のモジュールに分けられ、パレクセル社からそれぞれの専門講師による授業を受けました。最初は英語やプレゼンテーションに苦手意識を持っていた受講生たちも最初の3週間で日々めざましく成長し、その後のモジュールでも堂々と英語でスピーチし講師との会話を楽しんでいたことが印象的でした。外国人講師の国籍も、英国、ドイツ、スウェーデン、フランス等とさまざまで、英語にも多少の独特なアクセントがあり、まさにグローバルな英語を肌で感じた7週間であったと思います。これら外国人講師は皆親切で、グループ討論の際にも積極的にコミットする姿勢は私たち教職員も学ぶべき点があると思いました。

受講者18名の中には全日程を出席した学生も多く、熱心さが伝わってきました。最終日には受講者全員に学長からCertificate（修了証）が授与されました。初日には控え目であった学生たちが最終日には積極的に挙手し自分の意見を述べていたことに学生たちの大きな成長を感じました。

今回の経験をもとに、今後さらにプログラムの充実を目指したいと考えています。これからの学生のみなさんには積極的な参加をお待ちしています。

プレゼンテーションの様子

全員にCertificateが授与されました

2016年度 授業評価集計結果の報告

Report.

授業評価検討委員会

本学では、授業の改善を目的とした学生による授業評価をセメスター毎に実施しています。授業評価の方法として、2002年度から「授業アンケート」を行い、2009年度以降、全学生を対象に実施しています。評価対象となる教員は専任教員および非常勤講師です。

本アンケートの集計結果を受けて、学生の意見に対するフィードバックのために「リフレクション・ペーパー」を作成しています。全教員のリフレクション・ペーパーは冊子体にして図書館で公開し、閲覧ができるようにしています。これにより、今後の授業改善が積極的に進み、教員および学生にとって有意義な授業が実施されることを期待します。

2016年度授業評価の集計結果と解析結果の概要を以下のとおり報告します。

◆「教員の授業に関する項目」と、「学生自身の授業での学ぶ態度」について別々に評価をしてもらいました。

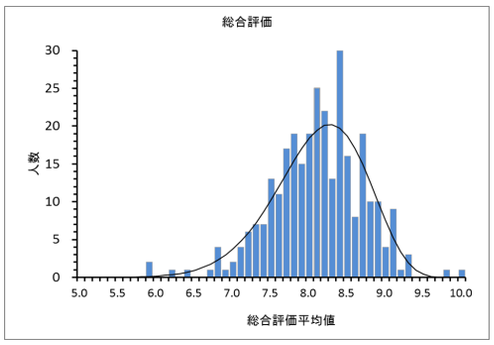
■この教員の授業について

設　　問	2016年度 評価（5段階）
Q1　授業の到達目標は明確に示されていた。	4.3
Q2　説明の仕方がていねいでわかりやすかった。	4.2
Q3　教科書や説明資料は適切でわかりやすかった。	4.2
Q4　私語や態度の悪い学生に注意するなど、円滑に授業が行われるよう配慮されていた。	4.1
Q5　授業内容に対する関心を高める工夫がなされていた。	4.2
Q6　学生の質問や発言を促す工夫がなされていた。	4.0

■学生の授業での学びについて

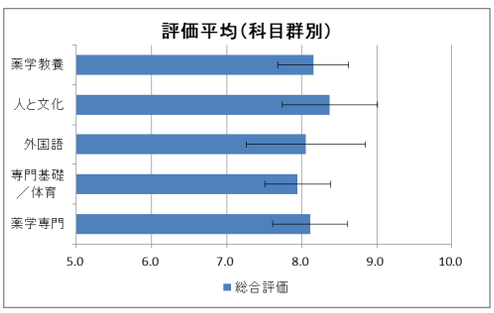
設　　問	2016年度 評価（5段階）
Q1　この授業の出席率を答えてください。（100%、90%程度、80%程度、70%程度、60%以下の5段階）	4.9
Q2　授業外学習をするなど、この授業に対して意欲的に取り組んだ。また、授業が円滑に進行できるよう、私語や居眠りをせず集中して受講した。	4.1
Q3　シラバス等により、授業内容や到達目標を事前に確認して講義にのぞんだ。	3.8
Q4　授業の到達目標を達成できた。	3.9
Q5　授業で学んだことで興味・関心が高まり、これからもより深く学びたいと思った。	4.0
Q6　質問や議論等により、教員や他の学生と積極的にコミュニケーションをとった。	3.8

◆教員個人別の総合評価の分布は、平均値8.1でした。

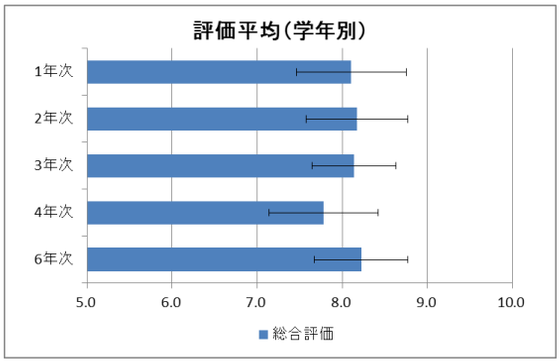


◆授業科目群、学年および職位別の総合評価は以下のグラフのとおりです。

1）総合評価と授業科目群

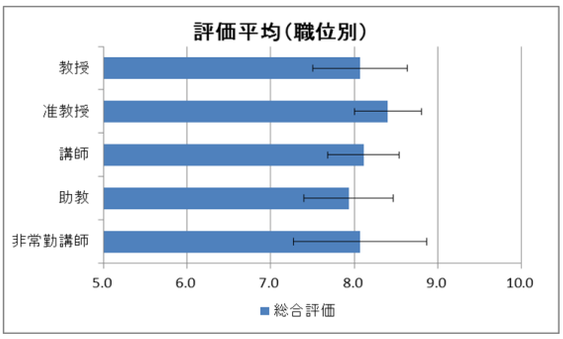


2）総合評価と学年

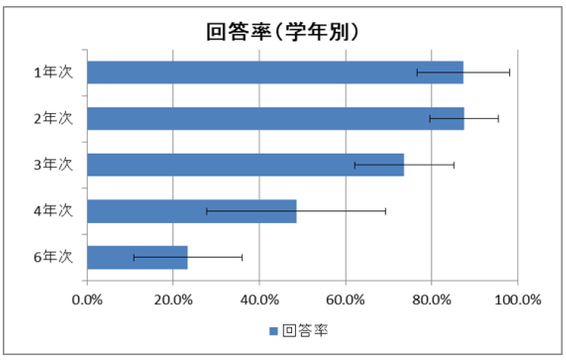


※5年次に授業評価アンケート対象科目はありません。

3）総合評価と職位



◆学年ごとのアンケート回答率では、学年が上がるにつれて回答率が顕著に減少しました。



最後に、授業アンケートに協力してくれた学生諸君に感謝するとともに、授業改善のために、アンケートの回答率の向上を目指したく思います。授業アンケートは今後も継続して実施しますので、回答への協力をお願いします。

また、評価対象となった教員におかれましては、アンケート結果を参考にされ、更なる授業改善に役立てていただければ幸いです。

2018年度 京都薬科大学入学試験について(概要)

入試課

2018年度の学部入学試験は、下記のとおり実施します。受験生や高校生向「大学案内」「DATA BOOK」の資料を入試課に用意しておりますので、お近くの受験生、高校生の方々にご案内下さい。

1．入学定員・募集人員

学部	学科	入学定員
薬学部	薬学科	360名

	特別選抜		一般選抜		
	推薦入学		一般A方式	一般B方式	一般C方式
	指定校制	一般公募制	(センター前期)	(一般入試)	(センター後期)
募集人員	50名	80名	45名	180名	5名
出願資格	高等学校長へ通知	2018年3月卒業見込者および2017年3月卒業者※ 評定平均値3.2以上	2018年3月卒業見込者 および 既卒者		

※文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を2017年3月修了者および2017年4月以降2018年3月末までに修了または修了見込者を含みます。<出願資格については、それぞれの入学試験要項で確認してください>

2.入学試験関係日程

	推薦入学		一般A方式	一般B方式	一般C方式
	指定校制	一般公募制	センター前期 (個別試験なし)	一般入試	センター後期 (個別試験なし)
出願期間 (全て郵送のみ受付)	2017年11月1日(水) ～2017年11月8日(水) 必着		2018年1月5日(金) ～2018年1月12日(金) 当日消印有効	2018年1月5日(金) ～2018年1月22日(月) 当日消印有効	2018年2月23日(金) ～2018年3月6日(火) 当日消印有効
試験日	2017年11月13日(月)	2017年11月18日(土)	2018年1月13日(土) 2018年1月14日(日)	2018年2月3日(土)	2018年1月13日(土) 2018年1月14日(日)
合格発表日	2017年11月28日(火)		2018年2月15日(木)	2018年2月15日(木)	2018年3月14日(水)
入学手続期限	2017年12月15日(金) 必着 入学金・授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限		2018年2月23日(金) (入学金納付期限)	2018年2月23日(金) (入学金納付期限)	2018年3月23日(金) (入学金納付期限)
			2018年3月23日(金) 必着 授業料(前期分)納付期限 入学手続書類等提出期限		

3．検査項目等

推薦入学（指定校制）
面接および調査書を基に総合的に判定します。

推薦入学(一般公募制)	配点
適性検査 Ⅰ：英語 [コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ]	100
Ⅱ：化学 [化学基礎, 化学]	100
面接	40
調査書(国語と数学の評定平均値の合計×2)	20
ただし、一定基準に達しない検査項目があれば、不合格になることがあります。	

	一般A方式（センター前期）	配点
数学	数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B	200
外国語	英語[リスニングの成績は利用しません。]	200
国語	国語[近代以降の文章のみ利用します。]	100
理科	化学[必須], 物理, 生物から1科目[選択]	200

	一般B方式（一般入試）	配点
数学	数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A, 数学B [数列, ベクトル]	200
外国語	英語 [コミュニケーション英語Ⅰ, コミュニケーション英語Ⅱ, コミュニケーション英語Ⅲ, 英語表現Ⅰ, 英語表現Ⅱ]	200
理科	化学基礎、化学	200

	一般C方式（センター後期）	配点
数学	数学Ⅰ・数学A, 数学Ⅱ・数学B	200
外国語	英語[リスニングの成績は利用しません。]	200
理科	化学[必須], 物理, 生物から1科目[選択]	200

4．試験場

京都薬科大学キャンパス

【詳細については入学試験要項をご確認下さい。】

お問い合せ：〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5 京都薬科大学 入試課
℡ 075-595-4678 / FAX 075-583-2232 / ホームページ http://www.kyoto-phu.ac.jp

2018年度大学院入学選考概要

薬学専攻博士課程および薬科学専攻博士後期課程

入試課

2017年4月

		薬学専攻 博士課程(4年制)	薬科学専攻 博士後期課程(3年制)	備　　考
募集人員		(一般入試、社会人入試)　10名	(一般入試、社会人入試)　2名	
募集分野等		(募集分野等、協力分野)　21分野等	(募集分野、協力分野)　11分野	協力分野においても研究指導を受ける事ができる
出願資格		(1)大学(6年制薬学部)を卒業した者(2018年3月末日までに卒業見込者を含む) (2)外国において学校教育における18年の課程(最終の課程は薬学)を修了した者(2018年3月末日までに修了見込者を含む) (3)大学(4年制薬学部)を卒業後、社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において２年以上の実務経験を有し、かつ、薬剤師免許を有している者で、本学大学院における入学資格審査において、第１号の者と同等以上の学力があると認めた者 (4)本学大学院において、個別の入学資格審査により、第１号の者と同等以上の学力があると認めた者	(1)薬学系(薬学、臨床薬学又は薬科学)又は理科系の修士の学位を有する者(2018年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (2)外国において前号と同等の修士の学位に相当する学位を有する者(2018年3月末日までに当該学位取得見込者を含む) (3)大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において２年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により、本学大学院における入学資格審査において、第１号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者 (4)本学大学院において、個別の入学資格審査により、第１号と同等の修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者	〈薬学専攻〉募集分野等 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、衛生化学分野 微生物･感染制御学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 病態生化学分野、薬物治療学分野 臨床薬理学分野、臨床腫瘍学分野 薬剤学分野、薬物動態学分野 臨床薬学分野、臨床薬剤疫学分野 臨床薬学教育研究ｾﾝﾀｰ (協力分野) 薬品化学分野、生薬学分野 薬品物理化学分野、公衆衛生学分野 〈薬科学専攻〉募集分野 薬品化学分野、生薬学分野 薬品物理化学分野、公衆衛生学分野 (協力分野) 薬品製造学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 薬剤学分野
主な出願書類		(1)入学願書 (2)成績証明書※1 (3)卒業論文(写)及び卒業論文の要旨(英文可)※2 (4)志願者名票・受験票 (5)出願資格(3)の者は薬剤師免許の写し (6)卒業・修了(見込)証明書※1 (7)出願資格(2)の者は住民票※3	(1)入学願書 (2)成績証明書※1 (3)修士論文(写)及び修士論文の要旨(英文可)※2 (4)志願者名票・受験票 (5)研究業績録 (6)修了(見込)証明書※1 (7)出願資格(2)の者は住民票※3	※1 本学卒業・修了(見込)者を除く ※2 卒業・修了見込者は卒業研究の概要(2,000字以内)1部(英文可) ※3 学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。 その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	(夏季募集)　2017年7月 7日(金)　～　2017年7月21日(金)　[必着] (冬季募集)　2018年1月 9日(火)　～　2018年1月16日(火)　[必着]		
	試験日	(夏季募集)　2017年8月22日(火) (冬季募集)　2018年1月30日(火)		
	合　格 発表日	(夏季募集)　2017年8月28日(月) 午後(予定) (冬季募集)　2018年1月30日(火) 午後(予定)		
	入学手続 期　　限	2018年3月16日(金) 入学金納付期限 授業料前期分納付期限,入学手続書類提出期限		
選考	面接試問	薬学専攻に必要な研究能力について、卒業論文又はそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	薬科学専攻に必要な研究能力について、修士論文又はそれに相当する研究業績のプレゼンテーションを中心に行う。	

★出願に関する問い合わせ先
事務局入試課　〒607-8414　京都市山科区御陵中内町5　TEL075-595-4678

2018年度大学院入学選考概要

薬科学専攻博士前期課程

入試課

2017年4月

		一　般　入　試	社　会　人　入　試	備　　考
募集人員		5　名		
		若干名	若干名	(募集分野) 薬品製造学分野、薬品化学分野 生薬学分野、薬品分析学分野 代謝分析学分野、薬品物理化学分野 公衆衛生学分野、細胞生物学分野 生化学分野、病態生理学分野 薬剤学分野
募集分野		薬科学専攻　11分野	薬科学専攻　11分野	
出願資格		(1)大学を卒業した者(2018年3月末日までに卒業見込者を含む) (2)2018年3月末日において大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められる者 (3)外国において学校教育における16年の課程を修了した者(2018年3月末日までに修了見込者を含む) (4)本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者	大学卒業後、出願時に社会人として大学、官公庁、企業又は病院等において１年以上の実務経験を有する者	
主な出願書類		(1)入学願書 (2)成績証明書※1 (3)志願理由書 (4)志願者名票・受験票 (5)出願資格(3)の者は住民票※2 (6)卒業(見込)証明書※1	(1)入学願書 (2)成績証明書※1 (3)志願理由書 (4)志願者名票・受験票 (5)実務実績書 (6)卒業証明書※1	※1 本学卒業・修了(見込)者を除く ※2 学術交流協定大学の卒業(見込)者は大学長等の正式な推薦状で代用可能(任意)。 その場合は、入学手続き時に住民票の提出を求める。
関係日程	出願期間	2017年7月7日(金) ～ 2017年7月21日(金) ［必着］		
	試験日	2017年8月22日(火)		
	合格発表日	2017年8月28日(月) 午後 (予定)		
	入学手続期限	2017年9月15日(金)入学金納付期限 2018年3月16日(金)授業料前期分納付期限,入学手続書類提出期限		
試験科目	外国語(英語)	4問題から2問題を選択解答 40点(20点×2)	――――	
	薬学専門	Ⅰ～Ⅴ系*1の11問題から2問題を選択解答 40点(20点×2問題)		*1 Ⅰ系 創薬科学系 薬品製造学分野、薬品化学分野、生薬学分野 Ⅱ系 分析薬科学系 薬品分析学分野、代謝分析学分野、薬品物理化学分野 Ⅲ系 生命薬科学系 公衆衛生学分野、細胞生物学分野、生化学分野、病態生理学分野 Ⅳ系 病態薬科学系 募集分野なし Ⅴ系 医療薬科学系 薬剤学分野
	小論文他	――――	小論文(一般)小論文(専門)の2課題 成績証明書	
	面接試問	志願理由書を参考に試問	志願理由書・実務実績書を参考に試問	【学識、説明能力、自覚・意欲】

★出願に関する問い合わせ先
事務局入試課　〒607-8414　京都市山科区御陵中内町5　TEL075-595-4678

2016年度 決算について

Report.

事務局長　山下 馨

学校法人京都薬科大学2016年度決算は、公認会計士、法人監事の監査を経て、2017年5月19日開催の理事会で審議・承認され、同日の評議員会に報告されました。

昨年度の創立130周年記念館の竣工をもって第2期中期計画の一連の施設設備整備事業が完了したことにより、今後数年間は大きな建物の整備はありません。

一方、当年度の主な施設整備事業としては、躬行館に停電対応型コージェネレーション設備を設置したことです。コージェネレーションは、ガスで発電し、排熱利用で給湯・冷暖房等、高いエネルギー利用効率で大幅な省エネが実現できます。さらには、万一の停電にも、コージェネレーションの発電によって、非常時の学生の避難所である躬行館1階から3階に非常用電源供給が可能となります。

その他の設備整備としては、学生満足度調査による学生の要望に応え、愛学館・躬行館食堂の座席を増設しました。昼食時の食堂の混雑緩和を望む声が多く寄せられていたことに応えたものです。その他、躬行館等のGHPの更新、愛学館講義室のAV機器の改修等を行いました。

また、競争的資金を獲得するため、前年度に引き続き文部科学省が管轄する助成事業に積極的に申請し、私立大学改革総合支援事業のうち、タイプ3「産業界・他大学等との連携」に採択されたほか、私立大学戦略的研究基盤形成事業に継続4件（補助金額51百万円）、私立大学等教育研究装置施設整備費補助金に1件（15百万円）、大学改革推進等補助金（がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）に1件（9百万円）が採択され、教育研究のより一層の充実を図っています。

さらに、教育研究総合センター等の整備事業費として第2号基本金に304百万円を組入れるとともに、本学の奨学金制度の充実を図る奨学基金に310百万円を組入れました。

2016年度決算の概要は以下のとおりです。

■ 資金収支計算書総括表（表1）

学生生徒等納付金収入は、予算額を下回り4,244百万円になりました。手数料収入は、入学志願者数が前年より58名増の2,521名となったことなどで、予算額を上回り、89百万円となりました。寄附金収入は、奨学金制度充実のための奨学寄附金が予算額を上回り34百万円となりました。補助金収入は、特別補助金の減額等により472百万円となり、予算額を大幅に下回りました。対前年比で見ると、一般補助が9百万円減、特別補助が15百万円の減となりました。付随事業・収益事業収入は、共同研究が増え、事業収入全体では予算額を4百万円上回り41百万円となりました。資産運用収入は、170百万円でほぼ予算通りとなっています。雑収入は45百万円で、主なものは私立大学退職金財団からの交付金や、科学研究費補助金の間接経費等です。その他の収入では、824百万円とほぼ予算通りとなりました。

一方、資金支出では、人件費は、当初計画通りの採用・補充ができなかったため、1,801百万円と予算額を下回りました。教育研究経費は、研究費の繰越し等による未執行分の増加や、停電対応型コージェネレーション設備の設置等による光熱水費支出の削減、業務委託等の減少等により、予算額を下回り1,284百万円となりました。管理経費支出も予算額を下回り277百万円となりました。施設関係支出では、停電対応型コージェネレーション設備設置工事、GHP更新工事等で、81百万円となりました。設備関係支出では、予算額を40百万円下回り193百万円となっています。資産運用支出は、組入計画に基づく組入れや、資産運用収入の繰入れなどで、1,502百万円となりました。主なものは、第2号基本金引当資産に304百万円、奨学基金引当資産に310百万円、第4号基本金引当資産に3百万円、減価償却引当特定資産に783百万円をそれぞれ繰入れました。

以上により、翌年度繰越支払資金は、3,039百万円となりました。

■ 事業活動収支計算書総括表（表2）

教育活動収支（経常的な収支のうち、経常的な財源活動及び収益事業に係る活動を除いた活動の収入・支出）における事業活動収入のうち、学生生徒等納付金収入（4,244百万円）は経常収入（5,086百万円）に占める割合（学生生徒等納付金比率）が83.5%と大きな比重を占めています。また、施設設備以外の補助金収入は、457百万円で経常収入に占める割合（補助金比率）が9.2%です。教育活動収支における事業活動支出においては、人件費（1,792百万円）の経常収入に占める割合（人件費比率）は35.2%です。また、教育研究経費は2,050百万円となり、経常収入に占める割合（教育研究経費比率）は40.3%となりました。以上により、教育活動収支差額は、680百万円となりました。

教育活動外収支（教育活動以外の経常的な財務活動及び収益事業に係る活動に係る事業活動収入及び事業活動支出）においては、国債、定期預金等の受取利息・配当金収入のみで、教育活動外収支差額は170百万円となりました。経常収支差額（教育活動収支差額+教育活動外収支差額）は850百万円となり、経常収支差額比率（経常的な収支バランスを表す比率）は16.7%となりました。

また、特別収支（特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な事業活動収入及び支出）は、図書の廃棄等により資産処分差額が95百万円となり、特別収支差額は△67百万円となりました。

事業活動収入は、5,113百万円、事業活動支出は4,330百万円となり、基本金組入前当年度収支差額（従来の帰属収支差額）は、782百万円、事業活動収支差額比率は15.3%となりました。

基本金は、第1号基本金に2百万円、第2号基本金には、教育研究総合センター等の整備費として304百万円を組入れました。また、第3号基本金には奨学基金に310百万円を組入れるなど、計620百万円の基本金組入れとなりました。この結果、当年度収支差額は162百万円となり、前年度からの収入超過額720百万を加え、翌年度繰越収支差額は883百万円となりました。

■ 貸借対照表総括表（表3）

有形固定資産は、設備整備や教育研究用機器備品の購入よりも、機器備品の廃棄及び減価償却額が多かったため、前年比676百万円減の14,771百万円になりました。また、特定資産は、第2号基本金引当特定資産、第3号基本金引当特定資産への計画的繰入、また減価償却特定資産への繰入等により、前年比1,416百万円増の16,881百万円となっています。また、流動資産は、前年比21百万円増の3,143百万円となりました。その結果、資産の部合計は34,855百万円となり、748百万円の増加となっています。

負債のうち、固定負債900百万円は退職給与引当金と教育研究用機器備品リース料の長期未払金を計上しています。流動負債745百万円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,646百万円となっています。

純資産の部は、基本金620百円を組入れ、その結果、基本金は32,326百万円となりました。繰越収支差額は883百万円となり、純資産の部合計は33,209百万円となりました。

以上

表1　資金収支計算書（総括表）　　2016年4月1日～2017年3月31日　（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	4,251,300	4,244,977	6,323	人件費支出	1,938,000	1,801,224	136,775
手数料収入	85,200	89,671	△ 4,471	教育研究経費支出	1,511,100	1,284,116	226,983
寄付金収入	32,000	34,518	△ 2,518	管理経費支出	301,000	277,458	23,541
補助金収入	584,600	472,977	111,622	施設関係支出	70,100	81,857	△ 11,757
付随事業・収益事業収入	36,900	41,214	△ 4,314	設備関係支出	233,700	193,581	40,118
受取利息・配当金収入	170,500	170,426	73	資産運用支出	1,494,700	1,502,505	△ 7,805
雑収入	37,700	45,724	△ 8,024	その他の支出	782,400	776,704	5,695
前受金収入	568,400	570,324	△ 1,924	予備費	20,000		20,000
その他の収入	827,900	824,246	3,653	資金支出調整勘定	△ 225,900	△ 194,095	△ 31,804
資金収入調整勘定	△ 591,300	△ 597,877	6,577	翌年度繰越支払資金	2,695,600	3,039,967	△ 344,367
前年度繰越支払資金	2,817,500	2,867,115	△ 49,615				
収入の部合計	8,820,700	8,763,320	57,379	支出の部合計	8,820,700	8,763,320	57,379

表2 事業活動収支計算書（総括表）　　2016年4月1日～2017年3月31日　（単位：千円）

事業活動収入の部					事業活動支出の部			
	科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
教育活動収支	学生生徒等納付金	4,251,300	4,244,977	6,323	人件費	1,925,000	1,792,767	132,232
	手数料	85,200	89,671	△ 4,471	教育研究経費	2,259,100	2,050,825	208,274
	寄付金	32,000	35,118	△ 3,118	管理経費	427,400	392,078	35,321
	経常費等補助金	531,600	457,977	73,622	徴収不能額等	0	0	0
	付随事業収入	36,900	41,214	△ 4,314				
	雑収入	37,700	47,199	△ 9,499				
	教育活動収入計	4,974,700	4,916,158	58,541	教育活動支出計	4,611,500	4,235,670	375,829
					教育活動収支差額	363,200	680,487	△ 317,287
教育活動外収支	受取利息・配当金	170,500	170,426	73	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外収入	0	0	0	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外収入計	170,500	170,426	73	教育活動外支出計	0	0	0
					教育活動外収支差額	170,500	170,426	73
					経常収支差額	533,700	850,914	△ 317,214
特別収支	資産売却差額	0	0	0	資産処分差額	10,000	95,115	△ 85,115
	その他の特別収入	63,000	27,325	35,674	その他の特別支出	0	132	△ 132
	特別収入計	63,000	27,325	35,674	特別支出計	10,000	95,247	△ 85,247
					特別収支差額	53,000	△ 67,922	120,922
					〔予備費〕	20,000		20,000
					基本金組入前当年度収支差額	566,700	782,992	△ 216,292
					基本金組入額合計	△ 902,500	△ 620,105	△ 282,394
					当年度収支差額	△ 335,800	162,886	△ 498,686
					前年度繰越収支差額	676,500	720,339	△ 43,839
					基本金取崩額	0	0	0
					翌年度繰越収支差額	340,700	883,226	△ 542,526

（参考）

事業活動収入計	5,208,200	5,113,910	94,289
事業活動支出計	4,641,500	4,330,918	310,581

表3 貸借対照表（総括表）　　2017年3月31日現在　（単位：千円）

資産の部				負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	31,712,208	30,985,052	727,156	固定負債	900,578	911,067	△ 10,489
有形固定資産	14,771,709	15,447,724	△ 676,014	流動負債	745,579	769,787	△ 24,207
特定資産	16,881,412	15,465,093	1,416,318	負債の部合計	1,646,158	1,680,854	△ 34,696
その他の固定資産	59,086	72,234	△ 13,147	純資産の部			
流動資産	3,143,758	3,122,619	21,139	科目	本年度末	前年度末	増減
				基本金	32,326,582	31,706,476	620,105
				繰越収支差額	883,226	720,339	162,886
				純資産の部合計	33,209,809	32,426,816	782,992
資産の部合計	34,855,967	34,107,671	748,296	負債及び純資産の部合計	34,855,967	34,107,671	748,296

（注1）表1、表2、表3とも単位未満切捨て

「留学の心構え研修」開催

Event

国際交流センター 国際交流推進室

ドイツ文化紹介

アメリカ文化紹介

グループディスカッションの様子
（ドイツについて）

グループディスカッションの様子
（アメリカについて）

2017年度夏季休暇期間中に海外サマープログラム（米国・ドイツ）に参加する予定の26名を対象に、5月26日（金）に留学の心構え研修を開催しました。京都府名誉友好大使であるドイツ人ラブロウ・セーニャさんと、アメリカ人のシュナイダー・ポール・アンドルさんのお2人を外部からお招きし、母国のコミュニケーション文化の紹介や、留学時のアドバイスについて、英語で発表していただきました。その後は大使を交えて、日本文化との違いについてグループディスカッションを行いました。参加した学生からは、留学へのモチベーションが高まったという感想や、留学する前にまず日本について勉強しなくてはならないといった意見があり、有意義な研修となりました。

今回の研修が、留学先での様々な経験を通じて人間力を高めることに繋がればと思います。

平成29年度科学研究費助成事業 採択状況

Report.

副学長（研究科長）　赤路 健一

本学研究者の研究資金には、大学から配当される研究費のほか、国などから助成される公的研究費（私学助成金を含む）、公益財団法人や企業からの研究助成寄付金、共同研究・受託研究契約に基づく企業からの研究費などがあります。

公的研究費は、文部科学省をはじめ厚生労働省、日本医療研究開発機構(AMED)などから助成されていますが、その中でも大きな割合を占めるのが、文部科学省所管の「科学研究費助成事業」（略して「科研費」）です。科研費の募集枠は金額によって分類されていて、個人で申請するものや複数の研究者で申請するものがあります。

下表には代表者のみ記載されていて、分担者として他の大学の先生と共同研究をされている場合は含まれていません。また、1人の研究者があまり多くの枠に申請できないように制限も設けられています。

平成29年度は、新規で42件申請して10件が採択されました（新規採択率23.80%）。

前年度からの継続分とあわせると、合計採択件数は40件、平成29年度交付予定総額は72,280千円（他機関への転出者は除く）となっています。

なお、特別研究員奨励費は下表には記載していません。挑戦的研究（萌芽）および研究活動スタート支援は現在申請中です。

研究種目	研究代表者	分野名	課題番号	課題名	交付額（千円）	新規・継続
基盤研究(B)	斎藤　博幸	薬品物理化学分野	17H03979	アポリポタンパク質の構造異常によるアミロイド線維形成の分子機構解明と制御法の開発	7,670	新規
	赤路　健一	薬品化学分野	16H05104	基質配列の非ペプチド化に基づくプロテアーゼ阻害剤設計戦略の開拓	3,900	継続
〃	小田　真隆	微生物・感染制御学分野	15H05017	機能性糖脂質を利用した細菌性肺炎の制御法探索とその分子メカニズムの解明	3,770	継続
基盤研究(C)	野崎　亜紀子	一般教育分野	17K03331	正義論としての集合的意思決定論	910	新規
〃	秋葉　聡	病態生化学分野	17K08322	IVA型ホスホリパーゼA2活性の細胞種選択的制御によるNASH新規治療戦略の確立	1,820	新規
〃	中村　誠宏	生薬学分野	17K08354	天然薬物を素材としたがん放射線治療における副作用軽減薬の開発	1,430	新規
〃	渡辺　徹志	公衆衛生学分野	17K08396	大気中のバイオエアロゾルと喘息増悪の関係の解明	1,300	新規
〃	長谷川　功紀	共同利用機器センター	17K08749	エストロジェン受容体発現量による予後・治療効果予測法の開発	2,340	新規
〃	木村　寛之	代謝分析学分野	17K10377	線維芽細胞増殖因子受容体を標的としたがんの質的診断用イメージングプローブの開発	1,820	新規
〃	中山　祐治	生化学分野	16K08253	チロシンリン酸化シグナルによる染色体分配制御機構の解明	1,690	継続
〃	長澤　一樹	衛生化学分野	16K08284	うつ病におけるP2X7受容体及び亜鉛を介したシグナリングの協調的連関の変動	1,560	継続
〃	大矢　進	薬理学分野	16K08285	炎症慢性化によるイオンチャネル発現・活性変動の機序解明とその創薬への応用	1,560	継続
〃	高田　和幸	病態生理学分野	16K08286	アルツハイマー病の細胞治療法の開発に向けた多種幹細胞由来Aβ貪食細胞の機能解析	1,560	継続
〃	松本　健次郎	薬物治療学分野	16K08287	難治性消化管疾患の病態制御における温度感受性TRPV4チャネルの役割	1,690	継続
〃	松田　久司	生薬学分野	16K08312	抗AGEs作用を基盤とした糖尿病合併症治療薬の開拓	1,690	継続
〃	小島　直人	薬品製造学分野	16K08330	新規抗がん剤の創製を指向したアセトゲニン誘導体のTHF環部分の構造活性相関研究	1,300	継続
〃	西口　工司	臨床薬学分野	16K08423	がん微小環境でのビスホスホネート薬の作用解析に基づく食道がん新規治療標的の探索	1,690	継続
〃	本橋　秀之	臨床薬学教育研究センター	16K08424	大規模データを用いた疾患特異的な副作用解析と科学的根拠にもとづく対策法への応用	1,430	継続
〃	中田　晋	臨床腫瘍学分野	16K08722	Wnt/Shh/低酸素経路の悪循環とクロストークを遮断しうる脳腫瘍治療標的の同定	1,690	継続
〃	松村　千佳子	臨床薬学教育研究センター	16K08891	患者QOL向上をめざした緩和医療における薬学的支援方法の確立	650	継続
〃	藤井　正徳	薬理学分野	16K09000	アトピー性皮膚炎の痒みにおけるMrgprの役割の解明	1,170	継続
〃	武上　茂彦	薬品分析学分野	15K07906	フッ素MRIマルチカラーイメージングを目指した新規機能性イオン液体ナノ粒子の創製	1,430	継続
〃	濱　進	薬品物理化学分野	15K07907	腫瘍微小環境応答性ペプチド搭載核酸キャリアーの開発と肝転移がん治療への展開	1,950	継続
〃	藤室　雅弘	細胞生物学分野	15K07952	Wntシグナルと小胞体ストレス応答を標的としたKSHV分子海賊機構の解明	1,560	継続
〃	伊藤　由佳子	薬物動態学分野	15K08085	オキサリプラチンベース化学療法における有害事象予防システム	1,040	継続
〃	勝見　英正	薬剤学分野	15K08600	活性酸素消去による転移性前立腺癌治療を目指した体内動態制御型白金ナノ粒子の創製	1,430	継続
〃	辻本　雅之	臨床薬学分野	15K08601	慢性腎臓病患者において生じる予測不能の薬物相互作用のメカニズム解明	1,430	継続
〃	吉貴　達寛	臨床腫瘍学分野	15K10585	私達が同定した新規細胞増殖因子に対するペプチド型抗がん剤の開発	1,300	継続
挑戦的萌芽研究	河嶋　秀和	放射性同位元素研究センター	15K15459	炎症性マクロファージ様細胞を標的とした新規放射性分子プローブの開発研究	1,430	継続
若手研究(B)	松本　崇宏	公衆衛生学分野	17K15473	トリテルペンに着目した抗遺伝毒性物質の探索研究	1,690	新規
〃	戸田　侑紀	病態生理学分野	17K16197	エクソソーム膜脂質を利用した血液がん細胞へのsiRNA導入技術の開発	2,470	新規
〃	内藤　行喜	代謝分析学分野	17K18231	糖尿病治療を目指す亜鉛錯体を含むバイオメタル医薬品の分子メカニズム解明	2,210	新規
〃	扇田　隆司	薬品物理化学分野	16K18529	細菌Ⅲ型分泌装置の回転運動に基づくエフェクター分泌機構の解明	1,430	継続
〃	渡部　匡史	細胞生物学分野	16K18925	カポジ肉腫関連ヘルペスウイルス複製におけるウイルス性前開始複合体の分子基盤の解明	1,950	継続
〃	峯垣　哲也	臨床薬学分野	16K18964	PARP阻害剤を用いた食道癌セカンドライン化学療法の構築に関する基礎的研究	1,300	継続
〃	林　直樹	微生物・感染制御学分野	16K19129	腸管上皮細胞への指向性を誘起する緑膿菌の感知機構の解析	1,300	継続
〃	鬼頭　宏彰	薬理学分野	16K21474	骨代謝におけるカルシウムシグナルを制御するイオンチャネルと骨免疫疾患との関連	2,080	継続
〃	坂本　尚志	一般教育分野	15K16612	『分析手帖』の研究—1960年代フランスにおける「概念の哲学」の発展	910	継続
〃	河渕　真治	薬物動態学分野	15K18937	母集団PK-PD解析による血漿中薬物濃度を用いたがん化学療法の個別化	1,300	継続
研究活動スタート支援	大石　晃弘	衛生化学分野	16H07326	プロテアソーム阻害剤誘発性味覚障害の発症機構の解明と新規治療法の確立	1,430	継続

生涯教育センター「2017年度 生涯教育eラーニング講座」（概要）

生涯教育センター

本学で開催した「2017年度 卒後教育講座」を、著作権・プライバシー等に抵触するスライドや音声を編集（削除・修正）し、WEB公開いたします。公開内容は、開催時の講演内容と完全に同一ではありません。
＊詳細はホームページ（http://skc.kyoto-phu.ac.jp/）をご参照ください。
＊申込受付期間、プログラム内容、配信期間等は変更される場合があります。

前期配信　　2017年12月1日（金）～12月22日（金）		
1	薬剤師のための臨床感染症学　～外来編～	医療法人社団洛和会　洛和会音羽病院 総合内科／感染症科　部長　神谷　亨　先生
2	病床再編成と地域包括ケアシステムに向けた患者情報の共有化	京都大学医学部附属病院　薬剤部 教授・薬剤部長　松原　和夫　先生
3	薬剤師が小児薬物療法にかかわるための知恵	東京理科大学　薬学部　臨床教授　小高　賢一　先生
後期配信　　2018年1月10日（水）～1月31日（水）		
1	薬剤師による緊急対応について ～いざという場合に求められる行動のために～	近畿大学　医学部　救急医学 窪田　愛恵　先生、主任教授　平出　敦　先生
2	漢方医はどう考え処方につなげるのか	明徳漢方内科　院長　篠原　明徳　先生
3	薬の費用対効果評価とは？	東京大学大学院薬学系研究科　医薬政策学寄付講座 特任准教授　五十嵐　中　先生

＊各ビデオ（100分前後／1コマ）は、**配信期間中、何度でも視聴していただけます。**

■ 認定単位

＊認定機関：共催 公益財団法人 日本薬剤師研修センター
＊単 位 数：G01（1単位／1コマ）計6単位／計6コマ
＊配付条件：1コマ毎に確認テスト（3問／コマ）を実施します。1テスト（3問）毎に正答率60％以上で1単位を配付します。認定単位は、各配信期間（前期・後期）終了毎に一括して送付します。

■ 申込方法等

＊申込受付期間：2017年9月25日（月）～10月22日（日）
＊申込方法：WEB限定受付（TEL、FAX、メールでの受付不可）　http://skc.kyoto-phu.ac.jp/
＊受講者：京都薬科大学および本学以外の薬系大学の卒業者
＊定　員：制限なし
＊受講料：15,000円
＊お支払いただいた受講料は、キャンセルや部分受講等に対する返金または一部返金をいたしませんのでご了承ください。

■ お問合せ先

京都薬科大学 生涯教育センター
〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5
TEL ：075-595-4677（TEL受付時間 平日のみ10:00～16:00）
FAX ：075-595-4683（24時間受付）
E-mail：skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp
＊お電話をいただきました際に不在の場合は、留守番電話にお名前、お電話番号、ご用件をお残しください。折り返し担当者からご連絡いたします。

NEWS クラブだより

ソフトテニス部

活動実績

関西医歯薬ソフトテニス大会

男子団体 1回戦出場

女子団体 2回戦出場

個人戦 男子 森山・西澤ペア 3回戦進出

女子 吉岡・太田ペア 3回戦進出

（個人戦は雨天順延のため打ち切り）

関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

男子団体 3位

女子団体 準優勝

個人戦 男子 森山・西澤ペア 3位

女子 森川・鳥本ペア 優勝

吉岡・太田ペア ベスト8

阿部・山下ペア ベスト8

今後の予定

4月 関西医歯薬ソフトテニス大会

5月 四薬戦

8月 関西薬学生ソフトテニス大会

11月 関西薬学生ソフトテニス六校リーグ

管弦楽部

こんにちは、管弦楽部です。経験の有無を問わず様々な学生が集まり、年に1回行われる定期演奏会を大きな目標に日々練習に取り組んでいます。また学祭、式典などの学校行事や施設等での依頼演奏をする機会にも積極的に参加しています。昨年行われた第44回定期演奏会も先生方のご指導、顧問の橋詰先生、OB･OG･エキストラの方々の支えもあり無事に成功させることができました。

さて、今年も11月19日に行われる第45回定期演奏会に向けて練習を開始しました。去年の定期演奏会を越える素晴らしい定期演奏会となるよう日々練習を行っておりますので、是非この管弦楽部の活動を注目していただけると嬉しいです！

漢方医学研究部

漢方医学研究部には、1年次生27名、2年次生11名、3年次生17名が在籍し、活動しています。今年からは新たな試みとして、京薬祭において班ごとに漢方についてテーマを定め、発表します。現在、1・2年次生を中心に3年次生のサポートのもと、テーマの設定や班分けを行なっております。この発表会は学内外問わずどなたでもご覧いただけますので、お気軽にお立ち寄りください。

また、部員同士の交流を深め学習も進めるために、今夏は愛媛県松山市に部員旅行へ行きます。他にも、漢方について楽しんで学ぶため、さまざまなイベントを企画して活発に活動しております。

ラグビー部

誇りを胸に

我々、ラグビー部は春の医歯薬大会、秋のリーグ戦に向け、日々厳しい練習に励んでいます。

ラグビーは15人で行うスポーツで、全員がお互いを信じ、仲間のために体をはり、ボールを繋いで勝利を目指します。この信じる力こそラグビーの精神であると思います。特に京都薬科大学ラグビー部はコミュニケーションに重きを置き、上下年次生問わず意見を共有するようにしています。それ故に、他の部活と比べ上下回生の繋がりがとても強いのが魅力の1つです。

また、遊びにも本気なのがラグビー部の魅力でもあります。夏には琵琶湖でBBQをしたり、学祭では盛り上げ役として全力で楽しんだり、他にも楽しいイベントがたくさんあります。部活も遊びも本気でやるならラグビー部へ！

マンドリン部

こんにちは。マンドリン部です。4月末に開催された京都マンドリン連盟による合同演奏会も無事に終わり、現在は10月の第89回定期演奏会にむけて日々練習を重ねています。

日々の練習はもちろんですが、夏休みには大学での練習だけでなく、4泊5日の夏合宿に行きます！

素敵な演奏会にできるよう、部員一同も毎日頑張っています。

第89回定期演奏会の詳細が決まったのでお知らせいたします。10月15日（日）の14:00より（開場は13:30より）京都市東部文化会館にて開催します。京都市東部文化会館は椥辻駅下車（徒歩7分）です。椥辻駅は山科駅から地下鉄で2駅です。曲目などの詳細はマンドリン部のtwitterをご覧ください!! @kpu_mandolin

茶道部

こんにちは、茶道部です。

私たち茶道部は、毎週火曜日に外部の先生をお招きしてお茶のお稽古をしています。

春、秋（特に5月11月）には、他大学で開催されているお茶会に積極的に参加し交流を深めています。

また、2年次生、4年次生を中心に4月にお寺を借りての春茶会を開催し、他大学やOGの方々等を招待して日頃のお稽古の成果をお披露目しています。今年も無事盛況のうちに終了しました。

そして11月に開催される学園祭では、1年次生が着物を着てお抹茶と和菓子を販売する他、茶道部ならではの和風のお菓子の販売も行う予定です。

陸上競技部

第17回全日本薬学生対抗陸上競技大会
　2017年5月5日（金）大井埠頭中央海浜公園
入賞選手
　男子 100m 6位 坂口雅弥　11″68
　　1500m 3位 松井宏泰　4′25″54
　　4位 清水長智　4′26″66
　　5000m 3位 松井宏泰　17′23″92
　　SwedenR 2位 野村航也、吉田亮、清水長智、松井宏泰　2′21″45
　女子 100m 3位 鈴木諒子　13″99
　　5位 嵯峨山理紗　14″37
　　4×100mR 2位 矢野瞳子、鈴木諒子、荒木万輪、嵯峨山理紗　55″53
　　800m 5位 辻谷優菜　3′00″00

今大会は大変天候に恵まれており、今年度初の大会として良い幕開けとなりました。

今年は8月に2つ、9月に1つの大会があります。今回の結果を踏まえて各自精進し、夏の大会でより良い結果を残せるように努力していきます。

剣道部

〈2016年度 活動実績〉
　関西薬学生剣道大会 団体3位/個人3位/新人戦優勝
　全国薬学生剣道大会 団体 準優勝/3位

〈今後の予定〉
　8月　関西薬学生剣道大会、全国薬学生剣道大会
　9月　関西学生剣道優勝大会
　10月　京滋学生剣道新人大会、秋季関西医歯薬学生剣道大会
　11月　関西学生剣道新人大会

私たち剣道部は日々自分たちの剣道を見つめなおしながら礼儀を大切にして、楽しく厳しく稽古を行っています。本年度は本校で関西薬学生剣道大会が行われるので主幹校として準備を進めしっかりと努めていきたいと思います。またこの大会で優勝することを目標により意識を高めこれからも稽古に励んでいこうと思います。

NEWS お知らせ

■ 本学WEBサイトをリニューアルいたしました

2017年3月21日に本学WEBサイトをリニューアルし、入試に関する情報を掲載する「受験生サイト」と、入試以外の大学の情報を掲載する「メインサイト」を立ち上げました。続いて、4月4日に英語サイト、5月1日には図書館サイトをリニューアルいたしました。最新の情報は「TOPICS」や「NEWS」枠で発信し、本学の魅力を知って頂けるように新規コンテンツも順次掲載予定です。是非ご覧ください。

■ 2017年度 入学宣誓式を挙行しました

2017年度京都薬科大学入学宣誓式を、4月3日（月）午前10時から創立130周年記念館で挙行しました。

2017年度新入生数は、薬学部薬学科373名、大学院薬学研究科薬学専攻博士課程10名です。

当日の学長式辞は、本学WEBサイト新着情報にてご覧いただけます。

NEWS 教育後援会からのお知らせ

学生課

4年次生を対象に、医療者のためのくすりの本『治療薬マニュアル』を寄贈しました。実務実習前の事前学習として活用することができ、大変喜ばれています。

また、今年度実務実習に臨む5年次生を対象に白衣授与式が行われ、学生1人につき大学名入りの白衣2着が授与されました。2着のうち、1着は大学、もう1着は教育後援会で補助しています。

10月には例年通り教育後援会総会を開催いたします。詳細につきましては別途ご案内させていただきますので、多数のご参加をお待ちしております。

「大学院トピックス」は休載させて頂きます。

私の薦める、私の一冊 Column

学生実習支援センター　助教　髙尾郁子

万城目学 著『鴨川ホルモー』

産業編集センター(2006)

悠久の歴史をつむぐ千年の都、京都。ここには古来より続く伝統技術やお祭り、寺社仏閣などが多く存在します。また多様な大学生が集う学生の街でもあります。この魅力ある京都で、今まさに学生生活を送る皆さんに紹介したいのが「鴨川ホルモー」です。京都を舞台に、部活、友情、恋、ライバルといった青春の要素がぎっしり詰まったこの物語を読めば「やっぱり京都での大学生活っていいよね！」と感じずにはいられません。

物語の主人公は2浪の末大学に入った新入生の安倍。タダ飯欲しさに参加した新歓コンパで一目ぼれをした安倍は、彼女に近づきたい一心でとあるサークルに入会します。しかし、祇園祭の宵山、そのサークルの本当の目的と摩訶不思議な対抗競技「ホルモー」の存在を知ることになり…。

謎の競技「ホルモー」、そしてサークル内の人間関係に翻弄されながらも、仲間たちとの関わりの中で、主人公の安倍が少しずつ成長していく物語です。

念のため誤解の無いよう説明しておくと、ここまで何度も登場した奇妙な単語「ホルモー」とは、決して焼肉の「ホルモン」のことではありませんよ。「ホルモー」とは、京都に古くから伝承されてきた、オニ（式神）を操り争う団体競技をいいます。（もちろん架空です）

大学における部活動、ましてや個性的な面々が集まり団体活動などを始めれば、人間関係の悩みはつきものです。主人公の安倍も、個性豊かな仲間との関係に悩んだり憤ったり。どうしても好きになれない恋敵に対しては、最後まで好きにはなれないようですが、泥臭くかかわり続けることで次第にその相手との距離感をつかんでいく様子が面白おかしく描かれます。人間関係の悩みはいつになっても解消されない永遠の課題ですが、人との関わりによって、少なからず自分の視野は広がったりするものだなと、物語の楽しいテンポに腹を抱えながらも納得させられます。

またこの物語には実在する京都の名所やお祭りがたくさん出てきます。身近な景色の中で物語が展開するため、荒唐無稽な要素がありながらも、話がよりリアルに感じてしまうのもこの本の魅力の一つです。怖い怪談からユニークなものまで伝説が残る京都なら、「ホルモー」なんてへんてこりんな競技も存在するかもね!?と読後には納得してしまうかもしれません。

最近、6年にわたり京都で学ぶ機会がありながら、この街の魅力を知らないまま学生生活を終えてしまう方もいるようです。映画や本等で出てきた場所へ実際に訪れることを「聖地巡礼」と称し、現在話題となっています。まだまだ京都の街を知らないなと思った方には、この本をきっかけに勉学の合間、仲間と共に京都散策に出かけてみてはいかがでしょうか。

皆さんにも安倍同様、京都を舞台に多くの仲間と、この街ならではの充実した学生生活を送ってほしいと思います。

物語を気に入った人は、「鴨川ホルモー」のスピンオフ「ホルモー六景」もおすすめです。

※本書は、図書館内の本誌推薦書コーナーに展示いたします。

2017年度KPU NEWS編集委員は下記の皆さんにお願いすることとなりました

＜委員長＞
鈴木　栄樹（教　授）

＜委員（教育職員）＞
藤室　雅弘（教　授）
藤原　洋一（教　授）
長谷川功紀（准教授）
大石　晃弘（助　教）

＜委員（事務職員）＞
井本富美代（学生課長）
川勝　章広（企画・広報課長）

＜委員（学生）＞
垣本　　愛（3年次）
小山　未来（2年次）
島　　千晶（2年次）

学生相談室だより

Column

学生課

■ こころの回復力（レジリエンス）について

レジリエンス(resilience)という言葉を耳にされたことはおありでしょうか？

レジリエンスとは、元来ストレス(stress)と同じく物理学で用いられていた用語であり、レジリエンスは“外部から力を加えられた物質が元の状態に戻る力”を、ストレスは“外力による歪み”を意味します。心理学分野では、1970年代以降、トラウマやPTSD（心的外傷後ストレス障害）の研究を通じてレジリエンスの概念に注目が集まり、数多くの研究が行われてきました。近年、日本でもストレス問題やメンタルヘルスに社会的関心が向けられるようになり、そうした潮流の中でレジリエンスという概念も広く紹介されていたことから、ご存知の方もおられるかもしれませんね。

用語の細かな定義はさておき、レジリエンスとは病気やストレスによるダメージを予防したり回復したりしてゆく力を意味し、日本語に訳せば、回復力、抵抗力、跳ね返す力となります。生きている限りストレスやダメージを受けることを完全に回避することは難しいですが、レジリエンスが十分に発揮されることによってダメージを小さくしたり回復を早めたりすることが可能になります。このレジリエンスという力は何も一部の人間にだけ備わった特別な能力でも才能でもありません。それは誰にでも備わっている基本的な力です。そうは言っても抵抗力や回復力の高い人、低い人といったように個人差があるのでは？と思われるかもしれませんね。確かにストレスに対するレジリエンスには個人差がありますが、レジリエンスを高めるトレーニングによって誰もが強化できるものであり、レジリエンスを高める方法は様々存在します。レジリエンス研究が盛んな米国で、米国心理学会が推奨しているレジリエンスを育む方法には以下のようなものがあります。

- ◇ 家族や友人等、他者と良好な関係を築く。
- ◇ 危機やストレスを克服できない問題として捉えることを避ける。
- ◇ 変えられない状況を受けいれる。
- ◇ 実現が可能な現実的な目標を設定し、それを目指して行動する。
- ◇ 不利な状況 においても決断してアクションを起こす。
- ◇ 喪失や苦しみを体験した後に、体験によって生じた成長や学びといった自分に生じた変化を探してみる（自己発見の機会を探す）。
- ◇ 自尊感情を高める（自信を培う）。
- ◇ 長期的な視点をもって、より広義の文脈からストレスを感じる出来事・状況を捉えてみる。
- ◇ 希望のある見通し（ビジョン）をもって自分にとってより良いことが起こることを期待し、自分にとって望ましいことをイメージする（視覚化する）。
- ◇ 心身を大切にケアする（自分の気持ちやニーズに注意を向ける。定期的に運動したり、リラックスして楽しめることをしたりする）。

如何でしょうか。自分に使えそうなものはありましたでしょうか？

逆境や困難に押し潰されず対処してゆくために、自分に合ったやり方でレジリエンスを育みたい、高めたいと思われたなら、自分なりに工夫して取り組むやり方もありますが、自分一人で自尊感情を高めたり物事の見方を変えたりすることは難しいことが往々にしてありますので、専門家に相談してみるのも一法です。

困難や問題に直面してから相談するという利用以外に、悩んだり困ったりする事態に対処する力を得ることを目的として事前に相談するという利用の仕方もあること、その相談先の一選択肢に学生相談室があることを心に留めておいていただきたいと思います。　（臨床心理士　建部 有里／電話：075-595-4672）

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で、問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく、相談室をご利用ください。悩みを相談する相手を見つけたり、解決や改善のために課題や問題に取り組むゆとりを見つけたりすることは思いのほか難しいものかもしれません。そんな時は学生相談室をご活用ください。

●相談

学生相談室における相談は、臨床心理士が担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。皆さんが気持ちや考えを整理したり、問題解決の糸口を探るためのお手伝いをいたします。

●サロンの開室

学生相談室内にサロンがあり、開室時に開放しています。疲れたとき、ホッとしたいときに、学内での居場所のひとつとしてご利用ください。飲食も可能です。

●相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は、学生相談室に直接来室してお申込みいただくか、電話もしくはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。

電話やメールが苦手な場合は直接学生相談室にお越しいただくことも可能ですが、その場合は、予約が入っていなければ即時相談をお受けいたします。もし予約が入っており、即時対応ができない場合は別時間帯で予約をお取りさせていただく対応になりますことをご了承ください。

・開室（受付）時間：月～金 8：45～17：15
・電　話：075-595-4672（直通）
・メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

※1 予約の際は、氏名、学籍番号、相談を希望する日時（第1～3希望）をお知らせください。
※2 メールは予約受付のみで、相談対応は行っておりませんのでご了承ください。

Library News

図 書 館

■ 2017年度SciFinder講習会 開催のお知らせ

データベースSciFinder Scholarをより活用していただくため、9月25日（月）にプロの講師をお招きしての講習会を開催いたします。

参加条件として、事前にSciFinderのユーザー登録を完了させる必要があります。参加をご希望でユーザーIDをお持ちでない方は、図書館HP「データベースで探す」のSciFinderのページからご登録ください。

参加申込書は図書館HP「イベント案内」にあります。申し込みは分野ごとに受け付けておりますので、取りまとめのうえ、8月9日（水）までに図書館へお申込みください。

開 館 日 程

2017年7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2017年8月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2017年9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

8:30-21:00　10:00-17:00　8:30-17:00　休館　休館=館内整備

休館日
・日曜日・祝日
・夏季休業期間(8/10～8/17)
・夏休み期間中(8/2～9/14)の土曜日
・館内整備日(8/2,8/24,9/29)

備考
・オープンキャンパス施設見学(8/5,8/6)
・5年次生「病院・薬局実習」Ⅱ期〔9/4～11/19〕

試験
・前期試験(7/21～8/1)
・前年次科目再試験(9/1～9/6)
・前期科目再試験(9/7～9/13)

■読売新聞社主催「大学生と考える、難病支援のカタチ」座談会に本学学生が参加しました

読売新聞社が主催する、RDD（世界希少・難治性疾患の日）特別企画「大学生と考える、難病支援のカタチ」の一環で行われた、刀根山病院（大阪府豊中市）での座談会に本学の学生が出席し、その様子が読売新聞（大阪本社版）に掲載されました（2/25朝刊）。

座談会の様子等、詳しくは以下のURLからご覧いただけます。

「あすモア」ホームページ　http://www.yomiuri-osaka.com/asumore/

■日本薬学会第137年会において学生優秀発表者賞を受賞

3月24日（金）～27日（月）に仙台で開催された「日本薬学会第137年会」において本学の学生8名が学生優秀発表者賞を受賞しました。

【口頭発表の部】

受賞者：病態生理学分野　博士課程2年次生　河西 翔平
演　題：骨髄由来アミロイドβ貪食細胞の機能解析およびアルツハイマー病モデルマウスへの脳内移植
演　者：河西 翔平、高田 和幸、射手園 将真、長山 紘子、黒田 絵莉子、戸田 侑紀、芦原 英司

【ポスター発表の部】

受賞者：細胞生物学分野　5年次生　伊藤 早織
演　題：核酸構造を活用した抗デングウイルス化合物の探索
演　者：伊藤 早織、藤澤 紘希、渡部 匡史、日紫喜 隆行[1]、加藤 文博[2]、岡野 裕貴[3]、田良島 典子[3]、南川 典昭[3]、藤室 雅弘（[1]東京都医学総合研究所、[2]国立感染症研究所、[3]徳島大学薬学部 大学院）

受賞者：病態生理学分野　博士課程1年次生　黒田 絵莉子
演　題：マウス末梢血由来造血幹細胞からミクログリア様細胞への分化誘導とその機能解析
演　者：黒田 絵莉子、高田 和幸、河西 翔平、戸田 侑紀、芦原 英司

受賞者：生薬学分野　5年次生　中田 葵
演　題：ショウガ（*Zingiber officinale*）の主要成分 [6]-gingerol の絶対立体配置の確認およびその誘導体の抗炎症作用
演　者：中田 葵、中村 誠宏、中嶋 聡一、笠 香織、山添 晶子、松本 朋子、太田 智絵、小川 慶子、深谷 匡、月岡 淳子、松田 久司

受賞者：代謝分析学分野　4年次生　青木 貴浩
演　題：インスリン分泌不全GKラットを用いた亜鉛錯体の抗糖尿病作用の評価
－硫黄を配位原子に持つ高活性錯体による検討－
演　者：青木 貴浩、三輪 剛志、内藤 行喜、吉川　豊、安井 裕之

受賞者：臨床薬学教育研究センター　5年次生　岡村 美代子
演　題：在宅医療における薬剤師の役割に関するケアマネジャーの意識調査
～テキストマイニング手法を用いた客観的解析～
演　者：岡村 美代子、今西 孝至、髙山 明、楠本 正明

受賞者：衛生化学分野　3年次生　岩村 萌美
演　題：Bortezomibはマウスの酸味感受性を可逆的に増大させる
演　者：岩村 萌美、大石 晃弘、小林 恭子、林 亜希子、西田 健太朗、長澤 一樹

受賞者：衛生化学分野　3年次生　牧野 愛美
演　題：シスプラチン投与マウスにおける苦味感受性の変化
演　者：牧野 愛美、大石 晃弘、林 亜希子、小林 恭子、西田 健太朗、長澤 一樹

※学年は受賞当時のもので掲載しています。

■日本化学療法学会学術奨励賞を受賞

表彰状

京都薬科大学微生物・感染制御学分野
林 直樹殿

Journal of Infection and Chemotherapy
第22巻4号に掲載された貴論文「The pilT gene contributes to type III ExoS effector injection into epithelial cells in *Pseudomonas aeruginosa*」は優れた研究業績と認められました
よってここに表彰し「日本化学療法学会学術奨励賞」を贈呈します

平成29年4月6日
公益社団法人日本化学療法学会
理事長 清田 浩

微生物・感染制御学分野の林直樹助教が「日本化学療法学会学術奨励賞」を受賞しました。

本賞は、2016年にJournal of Infection and Chemotherapy 22巻216-220ページで公表した「The *pilT* gene contributes to type Ⅲ ExoS effector injection into epithelial cells in *Pseudomonas aeruginosa*」の研究成果が評価されたものです。

2017年4月6日に東京で開催された第65回日本化学療法学会学術集会・第91回日本感染症学会総会・学術講演会において表彰式が行われました。

■日本薬剤学会第32年会において 第14回（2017年度）タケル・アヤ・ヒグチ記念賞を受賞

タケル・アヤ・ヒグチ記念賞
The Takeru & Aya Higuchi Memorial Prize, JAPAN

山本 昌殿

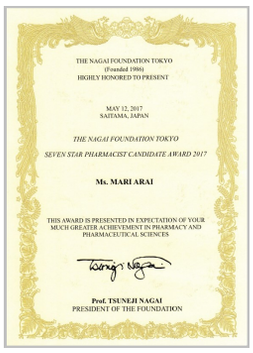
貴殿の薬剤学・製剤学分野における研究の業績には顕著なものがあります
よって本委員会はここに第14回(2017年度)タケル・アヤ・ヒグチ記念賞並びに賞状を授与し表彰いたします

2017年5月12日
公益社団法人 日本薬剤学会
会長 今井輝子

2017年5月11～13日に大宮で開催された「日本薬剤学会第32年会」において、薬剤学分野の山本昌教授が第14回（2017年度）タケル・アヤ・ヒグチ記念賞を受賞しました。

タケル・アヤ・ヒグチ記念賞は、「薬剤学の父」とも言われる米国カンサス大学で主に御活躍された故タケル・ヒグチ教授の薬剤学・製剤学分野における学問上、教育上、医療上、医薬品工業上の発展に対する偉大な功績ならびにアヤ夫人の功を記念し設けられた賞です。薬剤学・製剤学における顕著な業績を挙げた研究者に記念賞（国内対象）と記念栄誉講演賞（国外対象）が、毎年交互に授与されています。

■日本薬剤学会第32年会において 永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞


THE NAGAI FOUNDATION TOKYO
(Founded 1986)
HIGHLY HONORED TO PRESENT

MAY 12, 2017
SAITAMA, JAPAN

THE NAGAI FOUNDATION TOKYO

SEVEN STAR PHARMACIST CANDIDATE AWARD 2017

Ms. MARI ARAI

THIS AWARD IS PRESENTED IN EXPECTATION OF YOUR MUCH GREATER ACHIEVEMENT IN PHARMACY AND PHARMACEUTICAL SCIENCES

Prof. TSUNEJI NAGAI
PRESIDENT OF THE FOUNDATION

2017年5月11～13日に大宮で開催された「日本薬剤学会第32年会」において、薬剤学分野6年次生の新井真理さんが永井財団学部学生七つ星薬師奨励賞を受賞しました。

受賞者：薬剤学分野　6年次生　新井真理
演　題：Oxytocinの鼻腔内投与：直接移行経路を介した脳内送達の可能性
演　者：新井 真理[1]、田中 晶子[1]、井上 大輔[2]、古林 呂之[2]、草森 浩輔[1]、
勝見 英正[1]、坂根 稔康[3]、山本 昌[1]
([1]京都薬科大学、[2]就実大学、[3]神戸薬科大学)

NEWS 京 薬 会 だ よ り

＜2017年度　京薬会代議員総会の開催＞

2017年度京薬会代議員総を5月27日（土）に開催しました。

午前中には支部長による支部長会、そして午後に代議員総会が開かれました。支部長会に於いては、現在の京薬会ならびに支部活動の活性化、その他京薬会活動のさまざまな話題について、各支部長の意見集約とともに活発な議論が交わされました。

また、午後から全国から集まった支部ならびに年次代議員により平成29年度代議員総会が開催されました。この中では、28年度事業報告、28年度決算、29年度事業計画ならびに予算案が審議され、いずれも承認されました。事業計画の中では本年度より資料室の整備に着手することが報告されました。

また本年は、評議員ならびに京薬会本部役員の改選に当たり、京都薬科大学京薬会から選任された新評議員が報告され、新本部役員が承認されました。

さらには卒業生のための活動として企画された講師バンクが紹介され、同窓会や支部総会の開催時に利用していただきたい旨や、第2回となるリカレント研修（調剤業務基礎研修講座）を今年も開講することが報告されました。

＜ホームカミングデー開催予定＞

本年度ホームカミングデーは昨年と同様京都薬科大学学園祭「京薬祭」の開催に合わせて11月5日（日）に開催します。今年の講演につきましては決まり次第ホームページに、また京薬会誌8月号に掲載します。卒業生の皆様の多数ご参加をお待ちしております。

京都薬科大学奨学寄附金芳名録

Report

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

＊ 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させて頂きます。

＊ 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2017年3月～2017年5月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜ 卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

青木　長夫(昭16)
石黒　道彦(昭19)
安藤　寛治(昭29)
田辺　隆夫(昭29)
石原　　茂(昭32)
佐藤千鶴子(昭32)
辻　　勝蔵(昭34)
本岡美智子(昭37)
國貞　眞司(昭41)
森　　道子(昭41)
大見　博志(昭42)
大見　洋子(昭43)
久米　和子(昭43)
富永　　護(昭43)
藤津　勝子(昭43)
池阪喜代子(昭44)
高越　清昭(昭44)
蘆田　康子(昭45)
稲垣　美幸(昭45)
佐伯　素子(昭45)
武田　　忍(昭45)
田中　博義(昭45)
内藤　栄美(昭45)
小林　一信(昭46)
井岡　万純(昭49)
青井いづみ(昭50)
大石　美惠(昭51)
丹所　　稔(昭51)
長岡由美子(昭51)
森　一二美(昭52)
平野　　隆(昭55)
吉村　聡子(昭56)
串田　ゆか(昭63)
張　　賢二(平01)
尾﨑　朋久(平11)
松岡　義弘(平22)

＜ 京薬六二会卒業30周年記念募金（昭和62年卒業生）（五十音順）＞

赤塚　晴美
有田　順子
池田以素子
石原　順也
市村　智恵
稲澤加代子
今西　勝江
宇野友加里
遠藤　幸子
應矢志図香
片山　昌代
金澤　伸夫
川口　文子
川島　弓枝
木口　文里
城戸　祐子
河野　文香
小林　美香
昆布　恭一
坂本　順子
佐竹　成一
柴田　公見
新宮　蓉子
杉本　一素
杉本　史子
鈴木　和恵
瀬戸　政彦
高橋　恭子
高濱　裕香
巽　　佳代
田中　佳子
田村　洋子
田屋　博幸
辻村　欣也
寺坂眞紀子
富森あきよ
富森　裕規
友金　幹視
友金　美晴
中上　達矢
永田　雅信
長野　敬子
西尾　理緒
西田　　正
野村　初栄
初田　晴子
日高　伸二
平泉　靖子
平松　芳美
福原　知子
福山由希子
藤井　徹哉
藤岡　敬之
緑川　　正
宮良　潤子
守友　早恵
矢谷　治子
山口　直子
山本　款政
山本由美子
吉永　　香

＜ 京薬四二会卒業50周年記念募金（昭和42年卒業生）（五十音順）＞

谷口　睦子　　森川　信子　　山口　博行　　匿名希望

＜ 法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

久米　　光(評議員)　白木太一郎(評議員)　村山猪一郎(監　事)　森　　新(評議員)　森田　和子(理　事)

(2017年5月31日現在)

KPUNEWS No. 190　2017年7月発行／編集：KPUNEWS編集委員会
発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691(企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。